



2024年度 決算説明資料

2025年5月9日

旭化成株式会社

業績に関する補足の詳細データは、
「Financial Factbook」として当社WEBサイトに掲載しています

<https://www.asahi-kasei.com/jp/ir/library/finance/xlsx/2503-factbook.xlsx>

AsahiKASEI

Creating for Tomorrow

2024年度 通期実績	
営業利益 (のれん償却前営業利益)	親会社株主に帰属する 当期純利益
2,119 億円 前期比 +50.6%	1,350 億円 前期比 +208.2%
(2,445 億円 +43.6%)	

2025年度 通期予想	
営業利益 (のれん償却前営業利益)	親会社株主に帰属する 当期純利益
2,150 億円 前期比 +1.5%	1,250 億円 前期比 ▲7.4%
(2,470 億円 +1.0%)	

2024年度 通期実績
- 営業利益は前期比増益、6期ぶりに過去最高益を更新。医薬事業、クリティカルケア事業、デジタルソリューション事業等、各セグメントの「重点成長」事業の利益成長が寄与する等、全セグメントで増益 - 当期純利益は、「マテリアル」において一部事業の減損損失等を計上した前期から大幅に改善

2025年度 通期予想
- 営業利益は前期比増益、最高益更新を目指す。米国の関税政策のリスク等不透明な経営環境を踏まえた為替、石化市況を前提とするが、「重点成長」事業の成長やコストダウンの加速等の最善を尽くす - 当期純利益は、中計の方針に沿った構造転換の進捗に伴う損失を見込むこと等により、減益の予想

株主還元	2024年度の年間配当は 38円（2円増配） 。2025年度の年間配当は 40円を予想（2円増配）
中計の取り組み	2025年4月に、『中期経営計画2027 ～Trailblaze Together～』を発表

2025年度以降の各事業の開示区分と位置付け

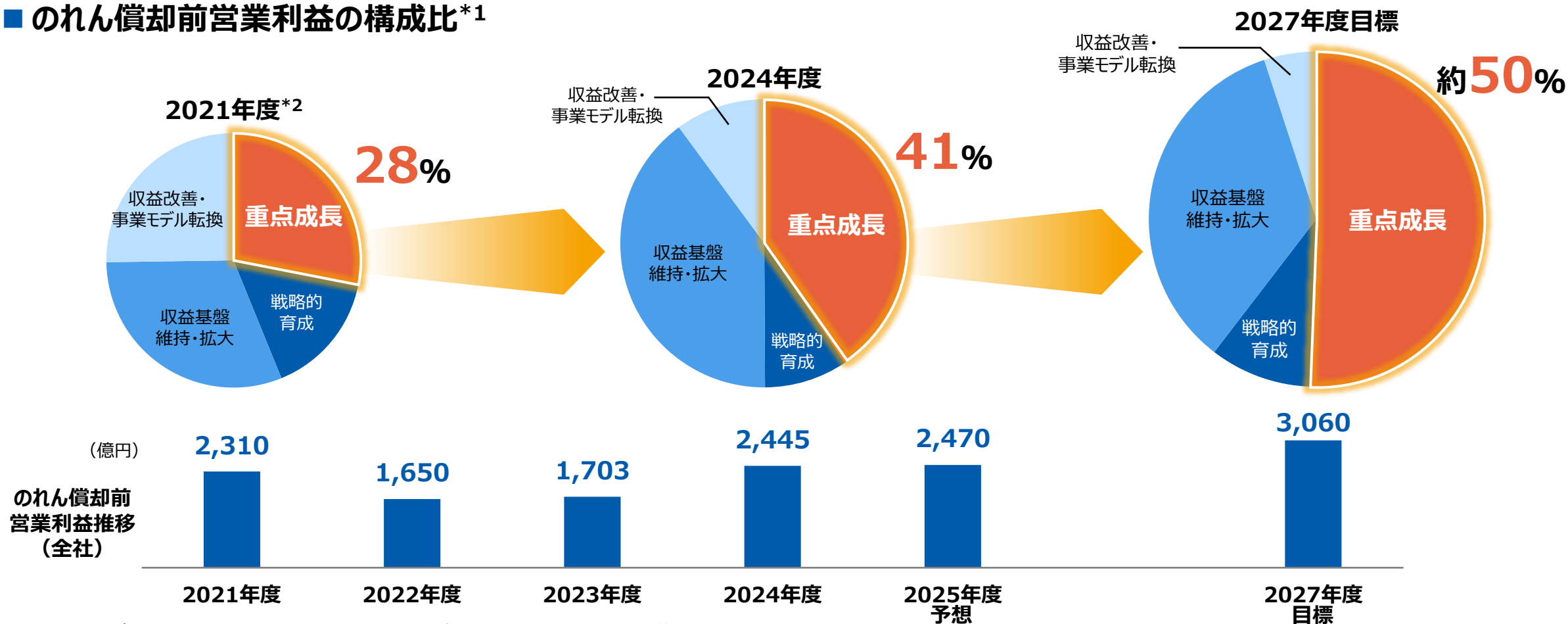
- | 2025年度より、各セグメント内のサブセグメントを再編（詳細は17ページ参照）
- | 「重点成長」事業をはじめ、各事業の事業ポートフォリオ上の位置付けを明確化し、Diversity × Specialtyを進化

	ヘルスケア	住宅	マテリアル
 重点成長 ● 過去投資からの利益創出 ● 非連続成長も含めた積極投資	 医薬  クリティカルケア	 海外住宅	 エレクトロニクス
 戦略的育成 ● 将来の成長ドライバー ● 競争力強化の観点での提携戦略推進	 ライフサイエンス	 不動産開発	 エネルギー&インフラ
 収益基盤維持・拡大 ● 安定収益創出 ● 拡大機会は資本効率を強く意識した上で判断		 建築請負、リフォーム 賃貸管理・不動産流通  建材	 カーインテリア  コンフォートライフ
 収益改善・事業モデル転換 ● 収益/資本効率が低迷する事業の構造転換 ● 無形資産を活用した新しい事業モデルへのシフト			 パフォーマンスケミカル  エッセンシャルケミカル

事業ポートフォリオ変革の進捗状況

- 前中計期間（2022～2024年度）では、医薬事業、クリティカルケア事業、デジタルソリューション事業等が成長軌道に回帰したことにより、「重点成長」事業の利益構成比が拡大
- 現中計期間（2025～2027年度）では、これまでの投資の成果を結実させ、「重点成長」事業を中心に利益成長を更に加速させる

■ のれん償却前営業利益の構成比*1



*1 記載しているパーセンテージは、マテリアル共通、その他、全社又は消去の数字を除いたのれん償却前営業利益に対する構成比

*2 2021年度の実績については、参考情報として現在の開示区分に簡便的に組み替えて表示している

1. 2024年度通期実績

2024年度通期実績（連結）

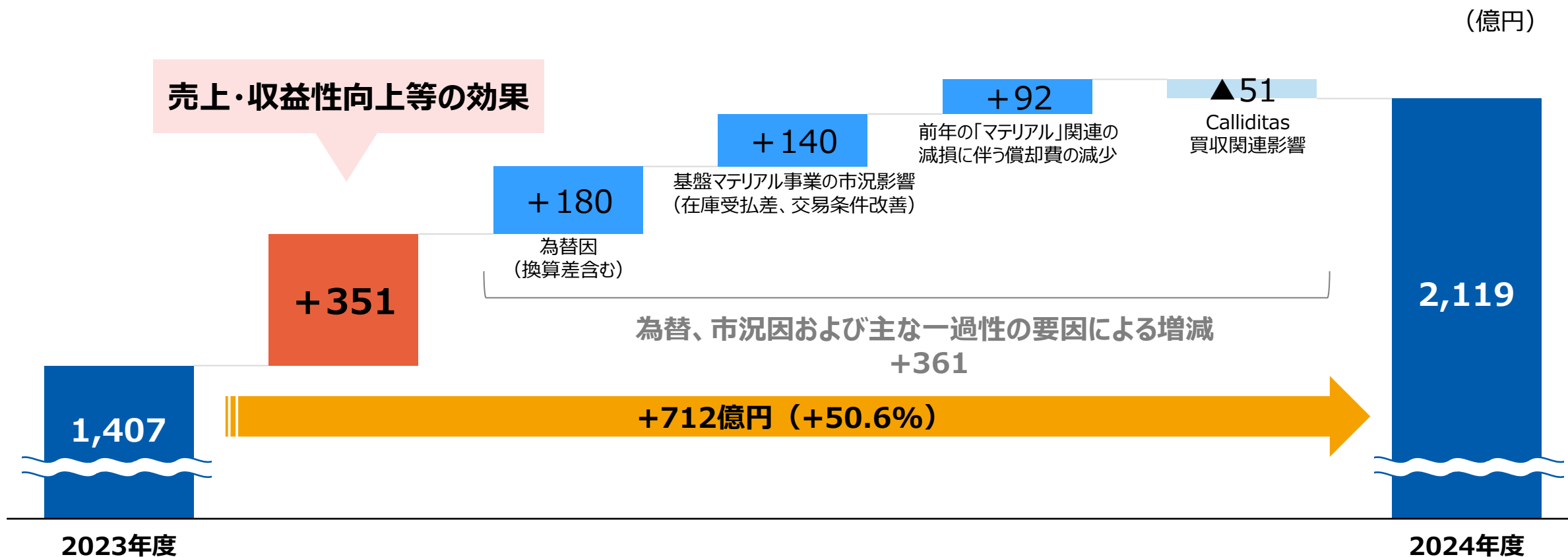
- 売上高は3兆373億円、前期比で2,524億円（+9.1%）の増収。前回予想（2025年2月発表）並み
- 営業利益は2,119億円、前期比で712億円（+50.6%）の増益。前回予想比で上振れ
- 親会社株主に帰属する当期純利益は1,350億円、前期比で912億円（+208.2%）の増益。前回予想比で上振れ

		2023年度	2024年度	前期比		2024年度 前回予想 (2025年2月発表)	前回予想比 増減率
				増減額	増減率		
売上高	(億円)	27,849	30,373	2,524	+9.1%	30,440	-0.2%
営業利益	(億円)	1,407	2,119	712	+50.6%	2,000	+6.0%
売上高営業利益率		5.1%	7.0%	+1.9%		6.6%	
のれん償却前営業利益	(億円)	1,703	2,445	742	+43.6%	2,340	+4.5%
EBITDA*1	(億円)	3,229	3,980	751	+23.3%	3,860	+3.1%
売上高EBITDA率		11.6%	13.1%	+1.5%		12.7%	
親会社株主に帰属する当期純利益	(億円)	438	1,350	912	+208.2%	1,100	+22.7%
EPS	(円)	31.60	97.94	66.34	+209.9%	79.47	+23.2%
のれん償却前EPS	(円)	52.96	121.61	68.65	+129.6%	104.04	+16.9%
為替・ナフサ前提							
平均為替レート（USドル）		145円	153円			153円	
平均為替レート（ユーロ）		157円	164円			164円	
国産ナフサ価格		69,200円／kl	75,700円／kl			76,300円／kl	

*1 EBITDA = 営業利益 + 減価償却費（有形、無形、のれん）

2024年度通期実績（営業利益増減要因）

- 前期比+712億円の増益のうち、約半分が売上や収益性の向上等、実力ベースの増益
- 各セグメントにおける拡販に加え、原燃料コストを踏まえた適正なプライシングやコストダウン等、売上・収益性向上の取り組みが奏功



2024年度通期実績（セグメント別：前期比）

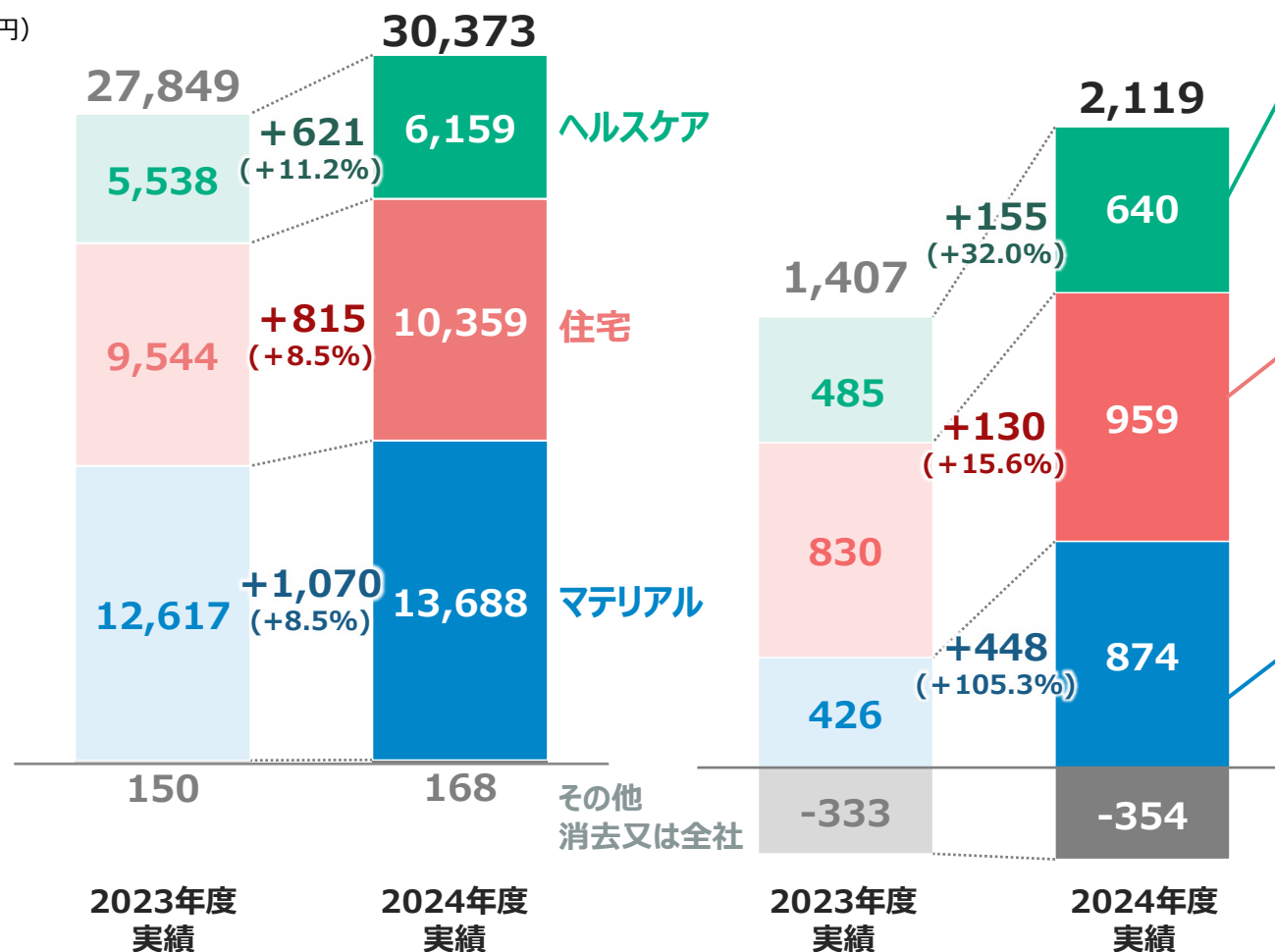
売上高 前期比

+2,524億円（+9.1%）

（億円）

営業利益 前期比

+712億円（+50.6%）



■ 営業利益の主な増減要因

ヘルスケア

+155億円

円安影響や、医薬事業における主力製品の販売量の増加、クリティカルケア事業における主力事業の堅調な推移等により、増益

医薬・医療事業

+77億円

クリティカルケア事業

+78億円

住宅

+130億円

建築請負部門における単価上昇やコストダウンによる利益率改善等により、増益

住宅事業

+118億円

建材事業

+11億円

マテリアル

+448億円

円安影響や、ライフソリューション事業における主力製品の販売の堅調な推移、環境ソリューション事業における石化市況の上昇による交易条件の改善等により、増益

環境ソリューション事業

+219億円

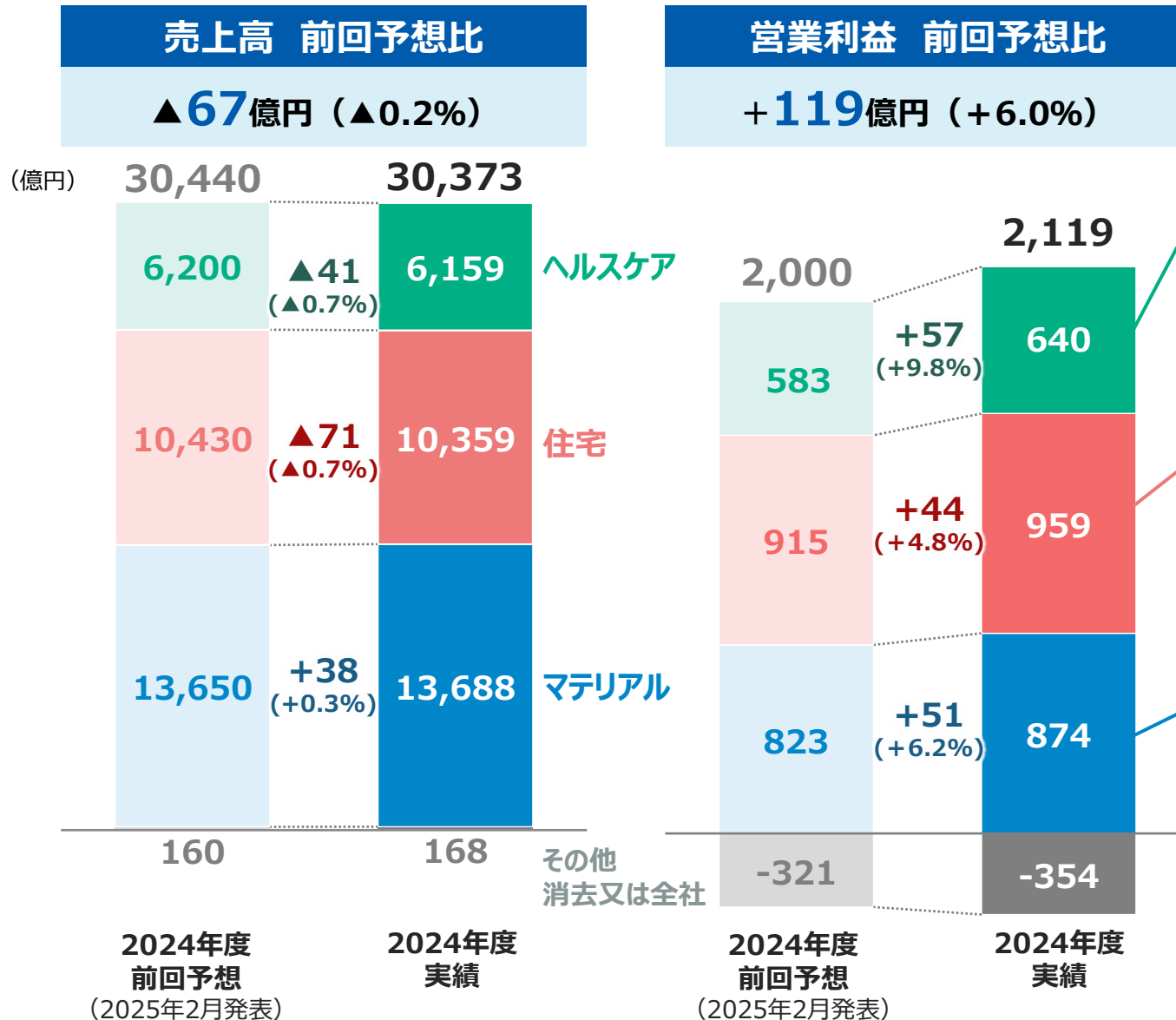
モビリティ&インダストリアル事業

+74億円

ライフソリューション事業

+170億円

2024年度通期実績（セグメント別：前回（2月発表）予想比） AsahiKASEI



■ 営業利益の主な増減要因

ヘルスケア	+57億円
医薬事業において、販管費やCalliditasののれん等の償却費が想定を下回ったこと等により、上振れ	
医薬・医療事業	+63億円
クリティカルケア事業	▲6億円
住宅	+44億円
建築請負部門において、工事の進捗やコストダウンが想定以上に進捗したこと等により、上振れ	
住宅事業	+43億円
建材事業	+1億円
マテリアル	+51億円
環境ソリューション事業において交易条件改善、および一過性の収入によるプラス影響等があり、上振れ	
環境ソリューション事業	+39億円
モビリティ&インダストリアル事業	+4億円
ライフイノベーション事業	▲1億円

2024年度通期実績（営業外・特別損益）

- 営業外損益は、連結決算におけるPTT Asahi Chemicalの減損損失を計上した前期から持分法投資損益が大幅に改善
- 特別損益は、基盤マテリアル事業などの一部事業において減損損失を計上した前期から大幅に改善

	(億円)		
	2023年度	2024年度	増減額
営業外損益	-506	-185	322
投資有価証券売却益	271	325	54
固定資産売却益	5	3	-2
受取保険金	153	95	-58
事業譲渡益	30	-	-30
受取和解金	62	-	-62
負ののれん発生益	-	22	22
特別利益	521	445	-76
投資有価証券評価損	18	23	5
固定資産処分損	80	85	5
減損損失	928	122	-807
製品補償損失	-	20	20
事業構造改善費用	107	184	77
特別損失	1,134	434	-700
特別損益	-613	11	624

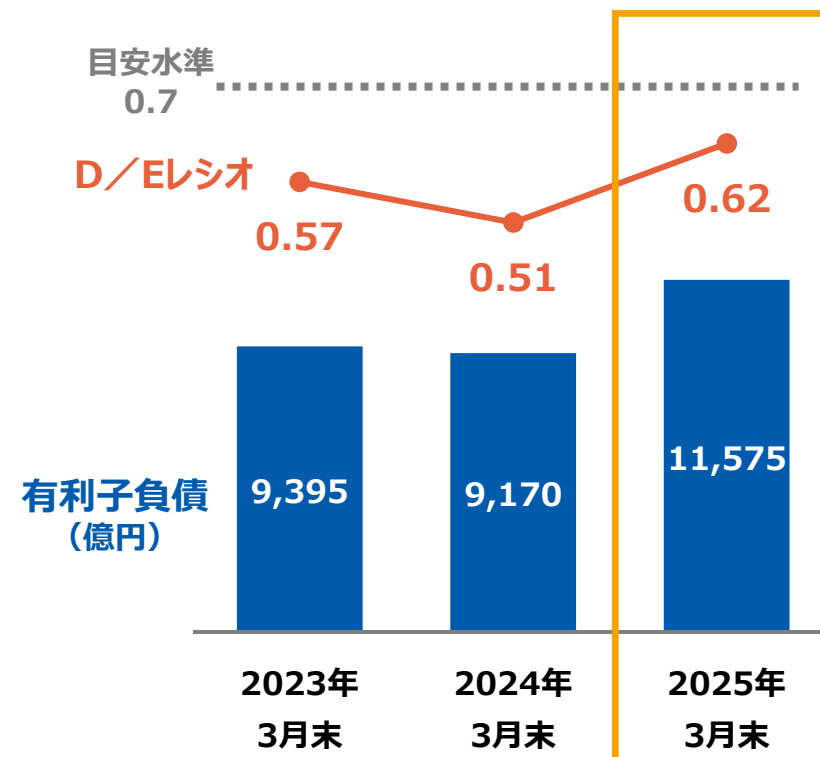
2024年度通期実績（連結貸借対照表）

- Calliditas、ODCの新規連結に伴い、のれんおよびその他の無形固定資産を計上したこと等により、総資産が3,525億円増加
- Calliditas、ODCの買収等に伴う資金調達により有利子負債が増加したこと等により、D/Eレシオは前年度末より0.12上昇

	2025/3月末	前期末比 増減額		2025/3月末	前期末比 増減額
流動資産	17,694	1,194	負債	21,013	2,872
現金及び預金	3,935	554	仕入債務	1,936	-197
売上債権	4,914	55	有利子負債 ^{*1}	11,575	2,404
棚卸資産	7,193	405	その他	7,502	664
その他	1,652	181	純資産	19,139	653
固定資産	22,458	2,331	自己資本	18,594	460
有形固定資産	9,206	673	株主資本	13,668	549
のれん	3,896	290	その他の包括利益累計額	4,927	-89
その他の無形固定資産	5,409	1,469	非支配株主持分	545	193
投資有価証券	1,684	-199			
その他	2,262	98			
資産合計	40,152	3,525	負債純資産合計	40,152	3,525

(億円)

有利子負債、D/Eレシオ



*1 リース債務除く

2024年度通期実績（キャッシュ・フローの状況）

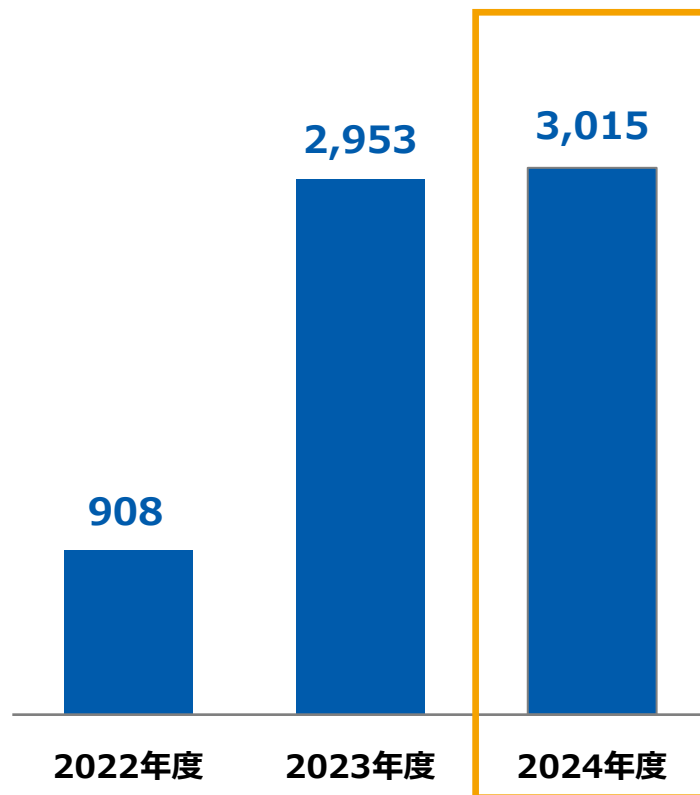
営業CF

原燃料価格上昇等に伴い運転資本が増加した一方、EBITDAの改善によりキャッシュ・インが増加

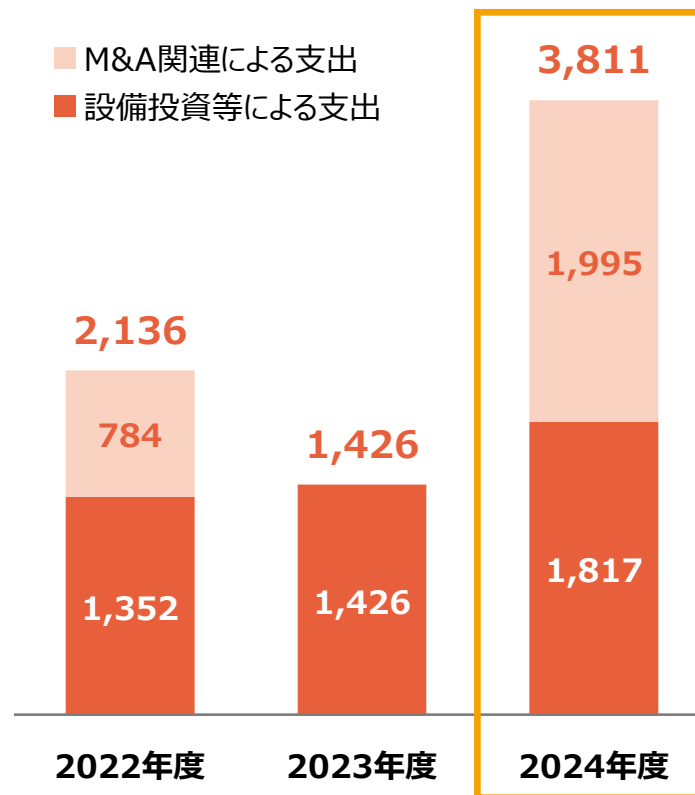
投資CF

Calliditas、ODC買収に伴うM&A関連の支出等によりキャッシュ・アウトが増加

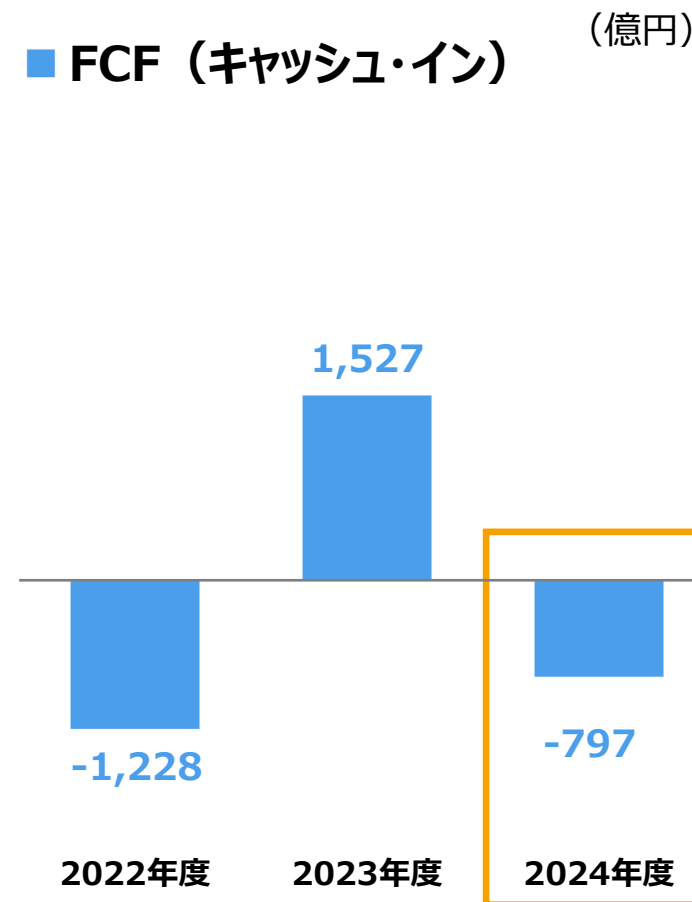
■ 営業CF（キャッシュ・イン）



■ 投資CF（キャッシュ・アウト）



■ FCF（キャッシュ・イン）



2. 2025年度通期予想

2025年度通期予想（連結）

- 売上高は3兆1,170億円、前期比で797億円（+2.6%）の増収
- 営業利益は2,150億円、前期比で31億円（+1.5%）の増益
- 親会社株主に帰属する当期純利益は1,250億円、前期比で100億円（▲7.4%）の減益

		2024年度			2025年度		2025年度 予想	前期比	
		上期	下期		上期予想	下期予想		増減額	増減率
売上高	(億円)	14,903	15,470	30,373	15,120	16,050	31,170	797	+2.6%
営業利益	(億円)	1,089	1,030	2,119	950	1,200	2,150	31	+1.5%
売上高営業利益率		7.3%	6.7%	7.0%	6.3%	7.5%	6.9%	-0.1%	
のれん償却前営業利益	(億円)	1,246	1,199	2,445	1,110	1,360	2,470	25	+1.0%
EBITDA ^{*1}	(億円)	1,975	2,005	3,980	1,920	2,210	4,130	150	+3.8%
売上高EBITDA率		13.3%	13.0%	13.1%	12.7%	13.8%	13.2%	+0.1%	
親会社株主に帰属する当期純利益	(億円)	602	747	1,350	420	830	1,250	-100	-7.4%
EPS	(円)	43.46	54.48	97.94	30.47	60.22	90.69	-7.25	-7.4%
のれん償却前EPS	(円)	54.80	66.81	121.61	42.08	71.83	113.90	-7.71	-6.3%

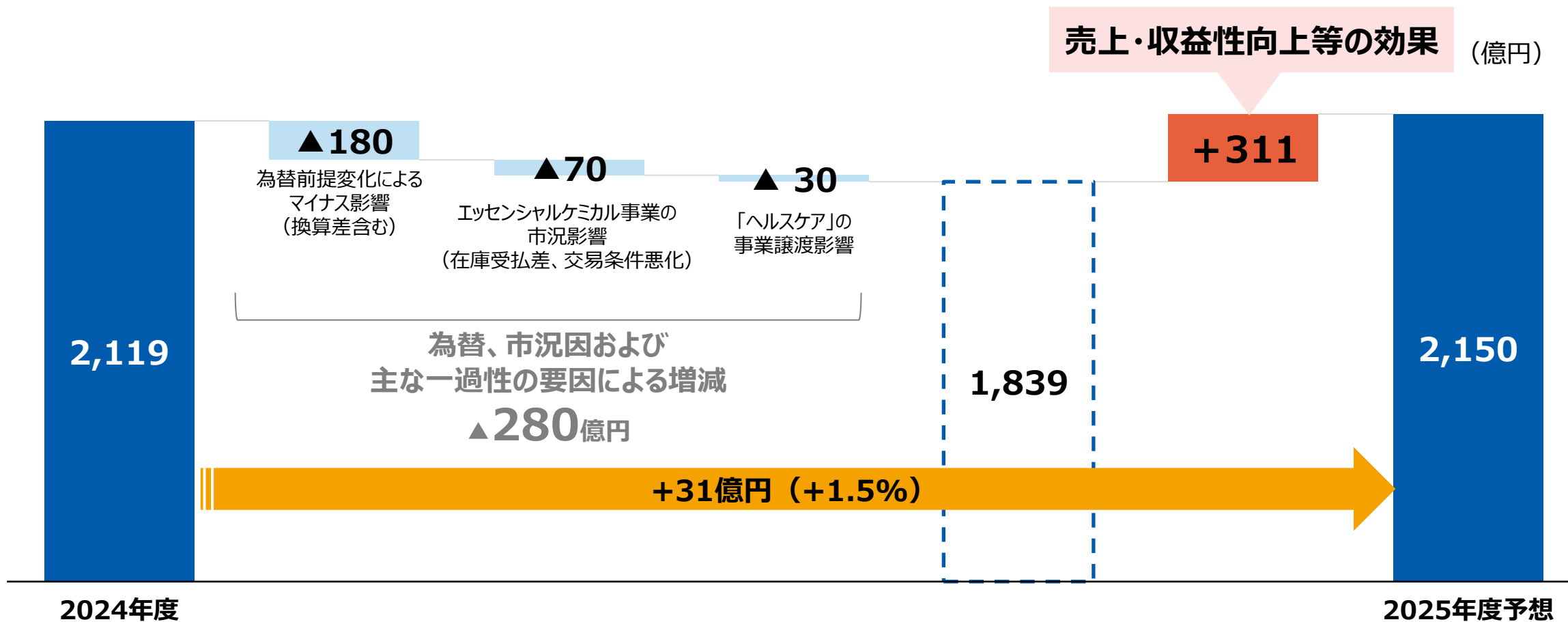
為替・ナフサ前提

平均為替レート（USドル）	153円	153円	153円	140円	140円	140円
平均為替レート（ユーロ）	166円	162円	164円	160円	160円	160円
国産ナフサ価格	78,000円/kl	73,300円/kl	75,700円/kl	55,000円/kl	55,000円/kl	55,000円/kl

*1 EBITDA = 営業利益 + 減価償却費（有形、無形、のれん）

2025年度通期予想（営業利益増減要因）

- 米国の関税政策のリスク等不透明な経営環境を踏まえた為替および市況前提や「ヘルスケア」の事業譲渡影響により、前期比で280億円のマイナス影響が見込まれる中においても増益を目指す
- 為替、市況因等の前提変化および一過性のマイナス影響を除く実力ベースでは、前期比で311億円の増益。「重点成長」事業を中心に堅調な利益成長を見込む



米国関税政策等の主な影響・リスクと対応策について

- 本発表時点における各事業の米国拠点における調達コスト上昇の影響については、関税影響前の備蓄在庫の活用や製品への価格転嫁、調達先の変更等を含め影響の抑制に努めることにより、軽微と想定
- 世界経済の停滞やサプライヤーが関税分を価格転嫁すること等による各事業の需要減少のリスクについては、織り込んでおらず、次回以降の決算説明等において適宜アップデートする（但し、2025年度の業績予想に、石化関連事業の一定の収益悪化リスクを織り込み済み）

セグメント	主な影響・リスクと対応策
ヘルスケア	・ ライフサイエンス事業の米国拠点にて、一部の製品・部材等を米国外から調達しているが、価格転嫁等により影響の抑制に努める ・ クリティカルケア事業の米国拠点にて、一部の部材を米国外から調達しているが、部材の備蓄在庫の活用や製品への価格転嫁等により影響の抑制に努める
住宅	・ 北米事業において、米国拠点では一部資材を米国外から調達しているが、価格転嫁等により影響の抑制に努める ・ 国内外ともに、世界景気の停滞やサプライヤーが関税分を価格転嫁すること等を背景とした消費者の購買意欲の低下によるリスクが想定される
マテリアル	・ カーインテリア事業の米国拠点にて、一部資材を米国外から調達しているが、価格転嫁等により影響の抑制に努める ・ 世界の景気停滞やサプライヤーが関税分を価格転嫁すること等を背景とした、自動車市場関連等の各事業の需要減少、石化市況の低下リスクが想定される（2025年度の業績予想は、国産ナフサ価格55,000円／klを前提とし、石化関連事業の一定の収益悪化リスクを考慮）

開示区分の変更

【2025年度からの開示区分】

セグメント	サブセグメント	主な事業
ヘルスケア	医薬・ライフサイエンス	医薬（国内・海外） ライフサイエンス（ウイルス除去フィルター・CDMO他）
	クリティカルケア	ACT（除細動器・AED他） CMS（着用型自動除細動器「LifeVest」他） 睡眠時無呼吸症診断・治療デバイス
住宅	住宅	建築請負（戸建・集合） 不動産開発（分譲マンション）^{*1} 賃貸管理・不動産流通^{*1} リフォーム 海外住宅（北米・豪州）
	建材	断熱材 ALC（軽量気泡コンクリート）
マテリアル ^{*2}	エレクトロニクス	電子材料 電子部品
	カーインテリア	自動車内装材
	エナジー＆インフラ	セパレータ イオン交換膜 中空糸膜（マイクロザ）
	コンフォートライフ	高機能マテリアル（添加剤他） 繊維 消費財（サランラップ他）
	パフォーマンスケミカル	エンジニアリング樹脂 機能性コーティング
	エッセンシャルケミカル	基盤マテリアル（石化関連事業） エラストマー
その他		
消去又は全社 ^{*2}		

【旧区分】

サブセグメント
医薬・医療
クリティカルケア
住宅
建材
ライフイノベーション （デジタルソリューション）
モビリティ＆インダストリアル
環境ソリューション
ライフイノベーション
モビリティ＆インダストリアル
環境ソリューション

（注記）

本ページ以降、
「2023年度＜組替後＞」
「2024年度＜組替後＞」
と表示している箇所では、2025年度からの開示区分
の変更を遡って反映した数値を記載している

また、2025年度より、以下の内容も変更となるため、
併せて組替えに反映している

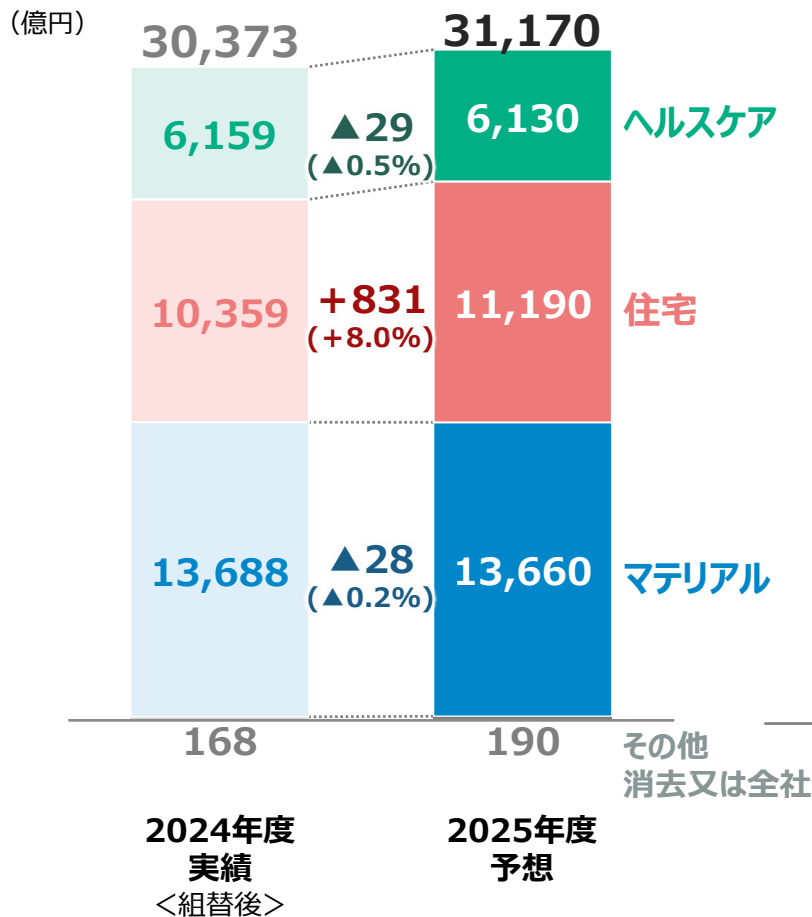
^{*1} 住宅事業の「不動産部門」について、従来「開発事業」と「賃貸・仲介事業」として売上高の内訳を開示してきたが、今後は「不動産開発事業」と「賃貸管理・不動産流通事業」として、売上高と営業利益の内訳を開示する
なお、従来「開発事業」に含まれたマンション管理事業は、「賃貸管理・不動産流通事業」に移管する

^{*2} 従来「消去又は全社」に含まれていたコーポレートの研究開発、DX関連の機能の一部を、「マテリアル」へ移管

2025年度通期予想（セグメント別：前期比）

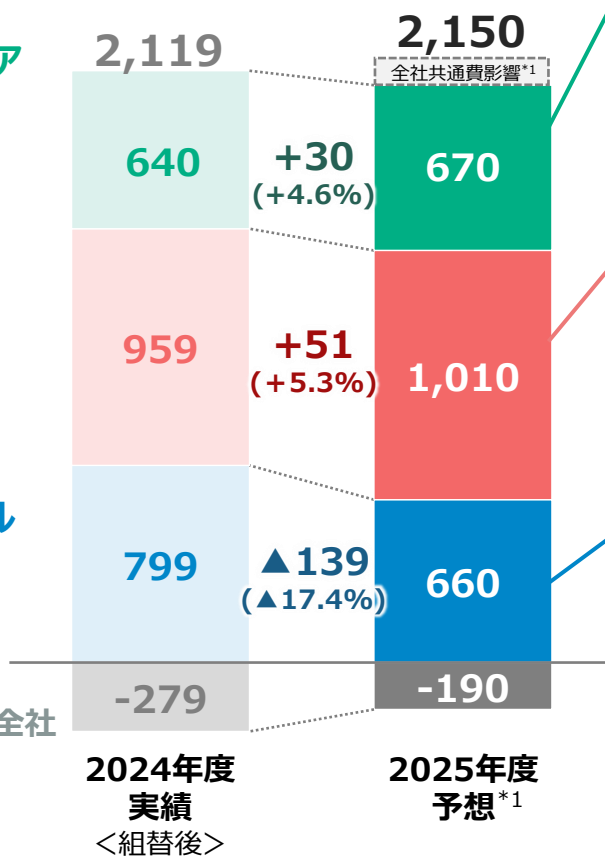
売上高 前期比

+797億円（+2.6%）



営業利益 前期比

+31億円（+1.5%）



■ 営業利益の主な増減要因

ヘルスケア

+30億円

事業譲渡や円高によるマイナス影響はあるが、主力製品の増収等に伴い、増益

医薬・ライフサイエンス事業

▲2億円

クリティカルケア事業

+32億円

住宅

+51億円

海外住宅事業における北米事業が伸長すること等により、増益

住宅事業

+48億円

建材事業

+3億円

マテリアル

▲139億円

エレクトロニクス事業は堅調に推移するが、円高影響や交易条件の悪化、エッセンシャルケミカル事業の在庫受払差や定期修理の影響等により、減益

エレクトロニクス事業

+5億円

カーインテリア事業

▲33億円

エナジー＆インフラ事業

▲25億円

コンフォートライフ事業

▲30億円

パフォーマンスケミカル事業

▲5億円

エッセンシャルケミカル事業

▲112億円

*1 2025年度より全社共通費の配賦比率を変更したことに伴い、ヘルスケアで▲10億円、住宅で▲16億円、マテリアルで▲38億円の減益要因となり、消去又は全社で+64億円の増益要因となっている。詳細は19ページ参照

2025年度の全社共通費の配賦比率変更影響

2025年度より全社共通費の配賦比率を変更する。それに伴い、各セグメントおよびサブセグメントの営業利益において、前期比の減益要因となっている（全社の営業利益に影響はなし）

(億円)

	2024年度 営業利益 ＜組替後＞	2025年度予想 営業利益	増減	うち 配賦基準変更影響	配賦基準変更影響 を除いた増減
ヘルスケアセグメント	640	670	30	-10	39
医薬・ライフサイエンス	266	264	-2	-10	7
クリティカルケア	374	406	32	-	32
住宅セグメント	959	1,010	51	-16	67
住宅	913	961	48	-12	60
建材	46	49	3	-3	7
マテリアルセグメント	799	660	-139	-38	-101
エレクトロニクス	221	226	5	-5	10
カーインテリア	108	75	-33	-1	-32
エナジー & インフラ	28	3	-25	-7	-18
コンフォートライフ	197	167	-30	-6	-24
パフォーマンスケミカル	77	72	-5	-5	0
エッセンシャルケミカル	202	90	-112	-10	-102
マテリアル共通	-35	27	62	-3	65
その他	29	30	1	-	1
消去又は全社	-309	-220	89	64	25
合 計	2,119	2,150	31	-	31

営業利益率

2024年度は「重点成長」事業を中心とした利益成長により前期比で改善。2025年度も引き続き利益成長を見込むが、為替の円高影響や石化市況の悪化により、横ばいの予想

ROIC

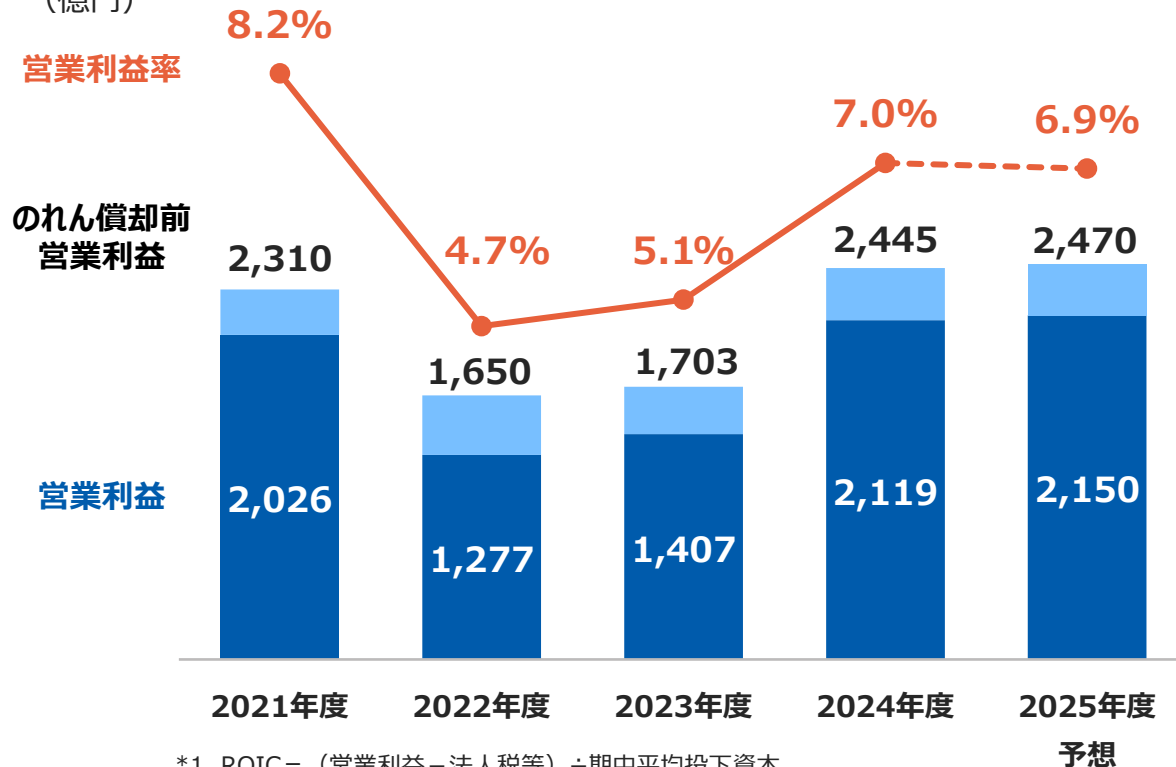
2024年度は法人税等の益を計上した前期比ではやや低下、2025年度もほぼ同水準を予想

ROE

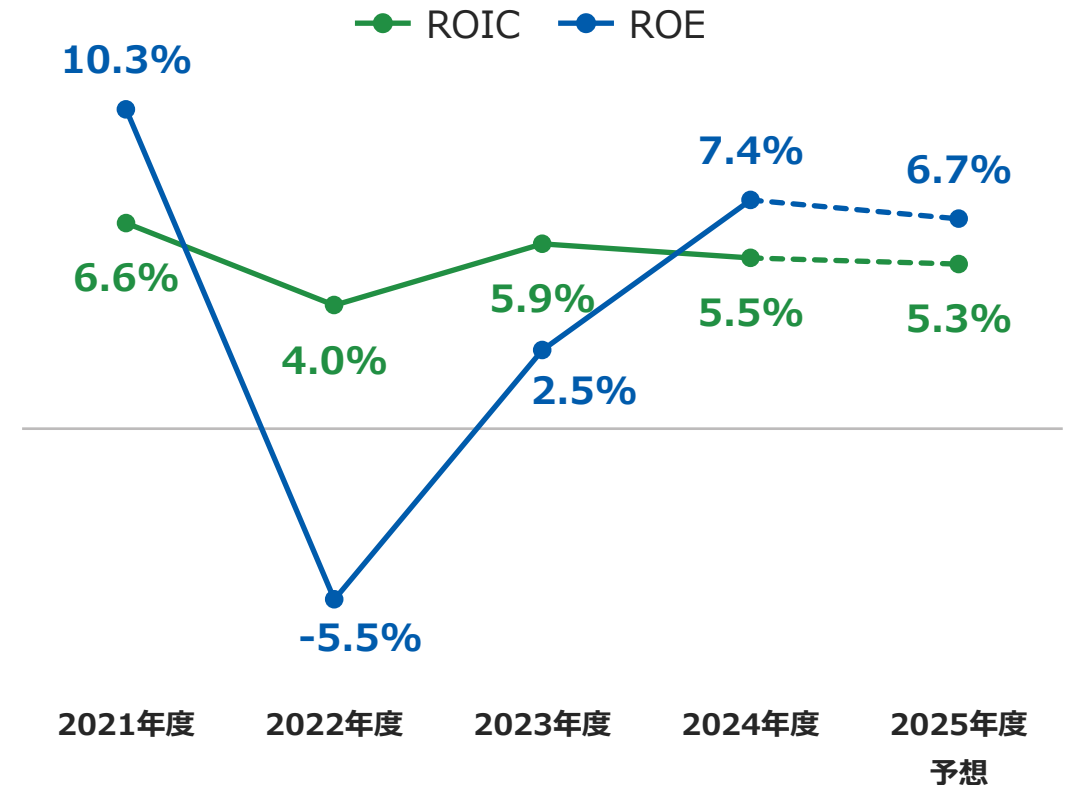
2024年度は当期純利益の大幅な改善に伴い前期比で改善。2025年度は株主還元の拡充や為替の円高推移により自己資本の減少を見込む一方、構造転換の進捗に伴う損失を見込むこと等により、低下する予想

■ 営業利益／営業利益率の推移

(億円)

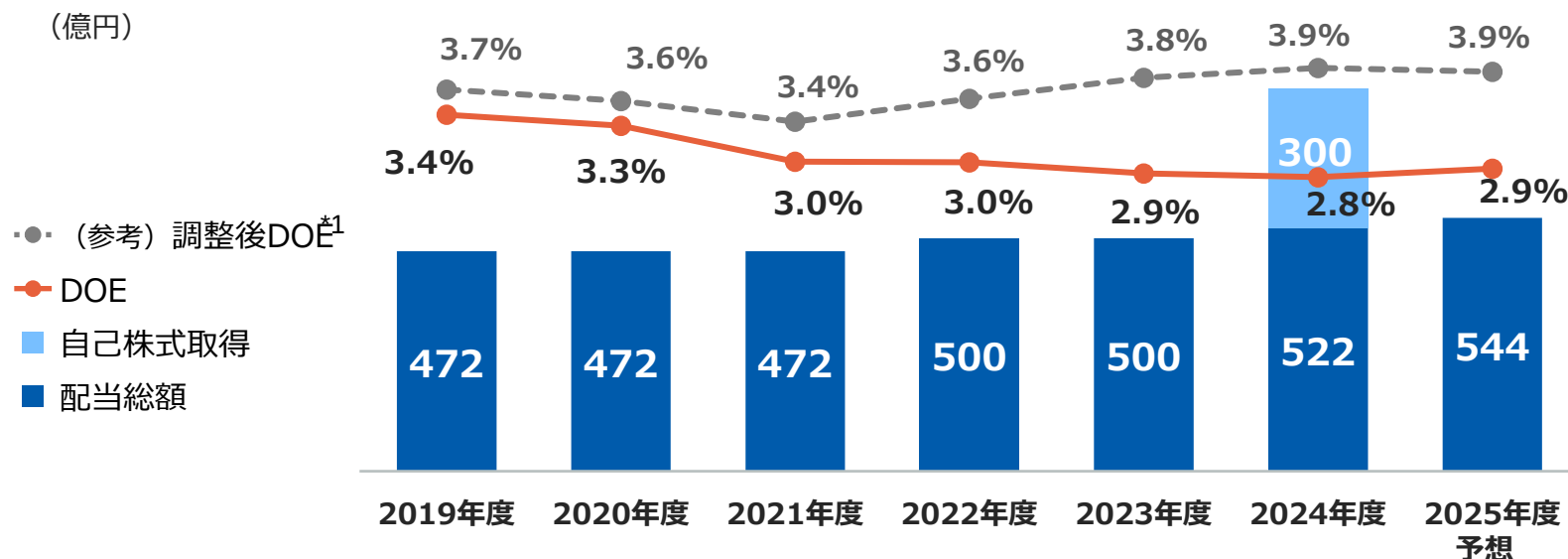


■ ROIC^{*1}／ROEの推移



*1 ROIC = (営業利益 - 法人税等) ÷ 期中平均投下資本

- 2024年度の年間配当は、**前期比で2円増配となる38円**
- 2025年度の年間配当は、中計における以下の株主還元方針に従い、**2024年度比で2円増配となる40円**を予想
- 2024年11月に発表した300億円を上限とした自己株式の取得が終了し、取得した自己株式の消却を実行



1株当たり配当金(円)	34	34	34	36	36	38	40
配当性向	45.4%	59.1%	29.1%	-	113.9%	38.8%	44.1%
自己資本	13,593	14,675	16,874	16,603	18,134	18,594	18,466
調整後自己資本 (株主資本) ^{*2}	13,028	13,359	14,594	13,175	13,119	13,668	14,374

株主還元方針

- 1 中期的なFCFの見通しから、株主還元の水準を判断する
- 2 **DOE3%を目安**とした、中長期的な累進配当を目指す
- 3 自己株式取得は資本構成適正化に加え、投資案件やキャッシュフロー、株価の状況等を総合的に勘案して検討・実施する

*1 調整後DOE = 配当総額 ÷ 調整後自己資本

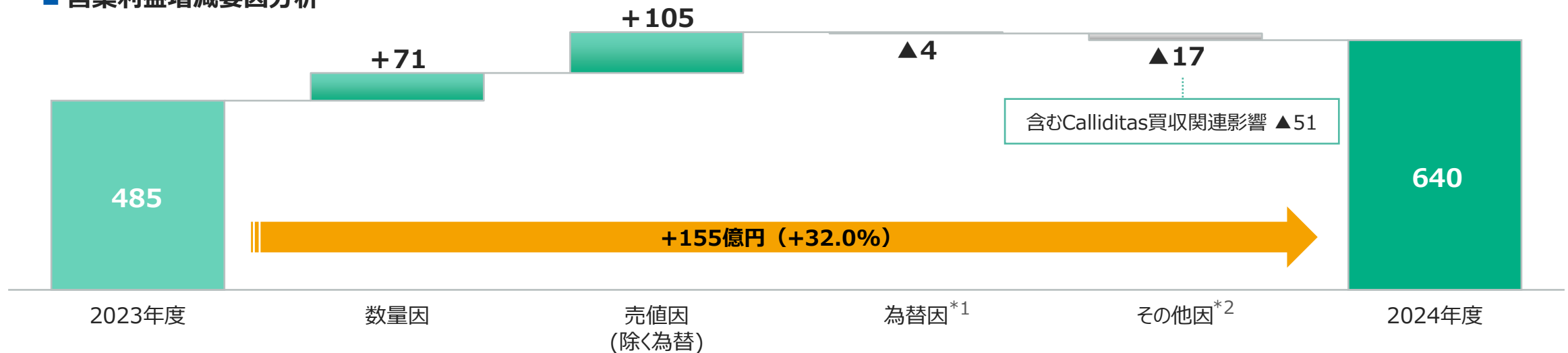
*2 調整後自己資本 = 株主資本 = 自己資本 - その他の資本構成要素

3. セグメント別詳細

医薬・医療事業における主力製品の販売量増加による数量因や、クリティカルケア事業における除細動器の販売価格の上昇による売値因のプラスがあり、増益

■ 営業利益増減要因分析

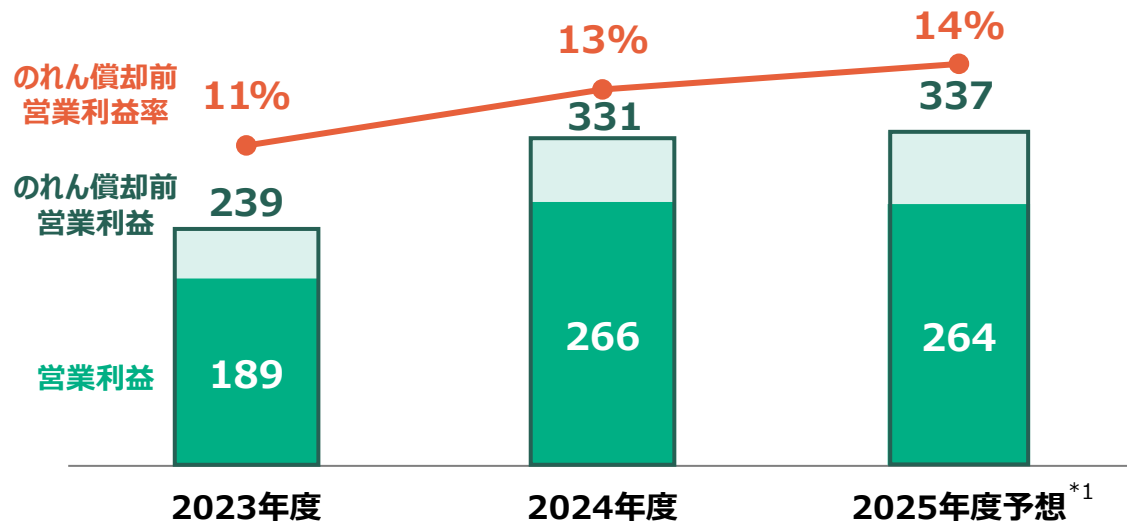
(億円)



	売上高				営業利益							
	2023年度	2024年度	増減額	増減率	2023年度	2024年度	増減額	増減率	内訳			
									数量因	売値因 (除く為替)	為替因 ^{*1}	その他因 ^{*2}
ヘルスケアセグメント	5,538	6,159	621	+11.2%	485	640	155	+32.0%	71	105	-4	-17
医薬・医療事業	2,084	2,452	368	+17.7%	189	266	77	+40.8%	94	17	3	-37
クリティカルケア事業	3,454	3,707	253	+7.3%	296	374	78	+26.4%	-24	88	-6	21

*1 売値因に関連する為替因 *2 為替換算差、固定費差、ライセンス導入・導出等の一時収益・費用、新規連結 等

■ 営業利益の推移（億円）



■ 営業利益の主な変動要因

2024年度 vs 2023年度	↗	● 医薬：Calliditas買収関連影響があったが、Envarsus XRを中心とした主力製剤の販売量の増加等により、増益 ● 医療：プラノバの販売量増加や円安影響があったが、新工場の稼働に伴う費用増等により、利益は横ばい
2025年度 vs 2024年度	→	● 医薬：研究開発等の販管費増加を見込むが、TarpeyoやEnvarsus XRなど主力製剤の販売量の伸長により、増益 ● ライフサイエンス：円高影響に加え、血液浄化事業の譲渡影響等により、減益

医薬



重点成長

- Envarsus XR（Veloxis）、Tarpeyo（Calliditas）、国内主力製剤の利益成長
- 免疫・移植等の周辺疾患領域にフォーカスした、成長投資の継続（追加M&A、ライセンスイン）

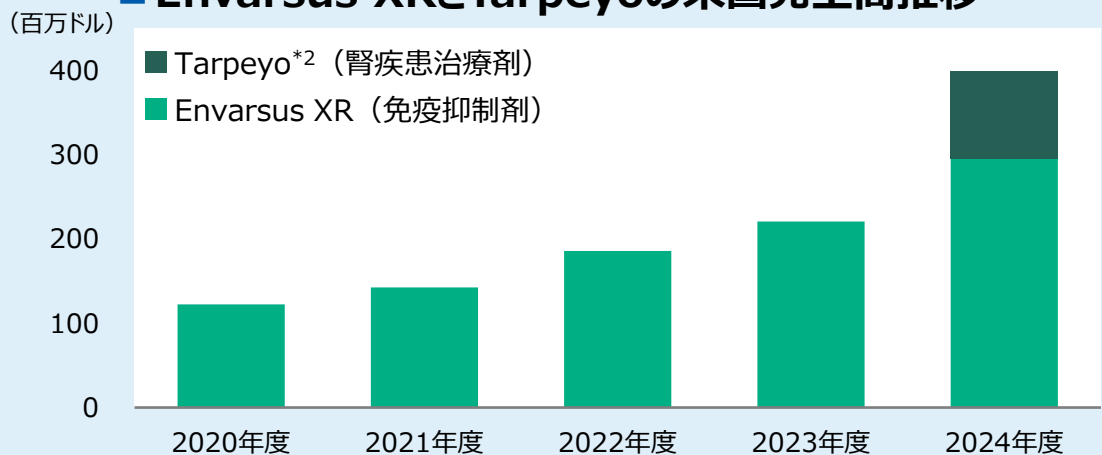
ライフサイエンス



戦略的育成

- プラノバ（ウイルス除去フィルター）の着実な成長
- Bionova（CDMO事業）の受注拡大

■ Envarsus XRとTarpeyoの米国売上高推移



*2 新規連結に伴い、2024年10月より当社で売上を計上

*1 2025年度より全社共通費の配賦比率を変更したことに伴い、医薬・ライフサイエンス事業で▲10億円の減益要因となっている。詳細は19ページ参照

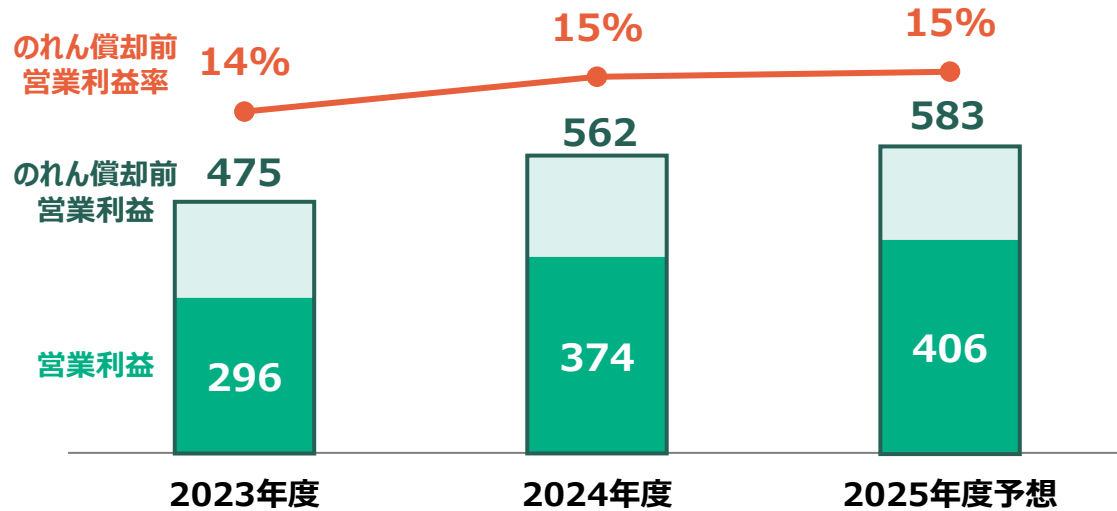
(売上高の対象地域、単位)	2023年度			2024年度			前期比	
	上期	下期	年間	上期	下期	年間	増減額	増減率
<Veloxis>								
Envarsus XR (米国、百万ドル)	107	114	220	135	161	295	75	+33.9%
<Calliditas>								
Tarpeyo (米国、百万ドル)					104	104	104	-
<旭化成ファーマ>								
テリボン (国内、億円)	194	195	388	205	205	410	22	+5.6%
リクラスト (")	6	7	13	6	6	12	-1	-4.6%
ケブザラ (")	54	58	112	55	42	97*	-15	-13.2%
プラケニル (")	29	29	58	32	23	55	-3	-4.8%
リコモジュリン (")	41	41	82	35	33	68	-14	-17.2%
クレセンバ (")	3	3	6	16	25	40	34	+536.9%
エムパバリ (")	1	6	7	10	9	19	12	+174.6%

*2024年5月～9月までの限定出荷の影響あり

製品名	一般名	薬効・分類	適応症	剤形
Envarsus XR	タクロリムス徐放製剤	免疫抑制剤	腎移植	錠剤
Tarpeyo	ブデソニド放出遅延製剤	腎疾患治療剤	疾患進行のリスクがある原発性IgA腎症	カプセル剤
テリボン	テリパラチド酢酸塩	骨粗鬆症治療剤 (副甲状腺ホルモン：PTH)	骨折の危険性の高い骨粗鬆症	注射剤
リクラスト	ゾレドロン酸水和物	骨粗鬆症治療剤	骨粗鬆症	注射剤
ケブザラ	サリルマブ (遺伝子組換え)	関節リウマチ治療剤	既存治療で効果不十分な関節リウマチ	注射剤
プラケニル	ヒドロキシクロロキン硫酸塩	免疫調整剤	皮膚エリテマトーデス、全身性エリテマトーデス	錠剤
リコモジュリン	トロンボモデュリンアルファ (遺伝子組換え)	血液凝固阻止剤	DIC (汎発性血管内血液凝固症)	注射剤
クレセンバ	イサブコナゾニウム硫酸塩	深在性真菌症治療剤	アスペルギルス症、ムーコル症、クリプトコックス症	カプセル剤、注射剤
エムパバリ	ベグセタコプラン皮下注製剤	補体 (C3) 阻害剤	発作性夜間ヘモグロビン尿症	注射剤

		開発コード（一般名）	適応症	起源	開発	備考（地域他）
国内	フェーズⅢ	TA799 （アブラグルチド）	短腸症候群	導入	他社	日本におけるフェーズⅠは 当社が実施
	フェーズⅡ	ART-123 （トロンボモデュリン アルファ（遺伝子組換え））	化学療法誘発性 末梢神経障害	自社	自社	効能追加 （日米共同フェーズⅠ完了）
	フェーズⅡ	AK1830	変形性関節症に伴う疼痛	導入	自社	
	フェーズⅡ		慢性腰痛症に伴う疼痛			
	フェーズⅠ	AK1910	自己免疫疾患	導入	自社	
海外	フェーズⅢ	ART-123 （トロンボモデュリン アルファ（遺伝子組換え））	凝固異常を伴う重症敗血症	自社	自社	米国・欧州他
	フェーズⅠ	ART-123 （トロンボモデュリン アルファ（遺伝子組換え））	化学療法誘発性 末梢神経障害	自社	自社	米国 （日米共同フェーズⅠ完了）
	フェーズⅠ	VEL-101	臓器移植	導入	自社	米国他
導出品	フェーズⅡ	LY3857210	慢性疼痛	共同開発	他社	導出先開発中 （日中販売権は当社が保持）

■ 営業利益の推移（億円）



■ 営業利益の主な変動要因

2024年度 vs 2023年度	● ACT : AED、医療機関向け除細動器の販売価格の上昇や、原価低減、円安影響により、増益 ● CMS : 新規患者数の増加や円安影響により、増益 ● 睡眠時無呼吸症診断デバイス : 販売量の増加により、増益
2025年度 vs 2024年度	● ACT : AED、医療機関向け除細動器の販売量の増加や販売価格の上昇に伴い、増益 ● CMS : 新規患者数の増加により、増益 ● 睡眠時無呼吸症診断デバイス : 販売量の増加により、増益

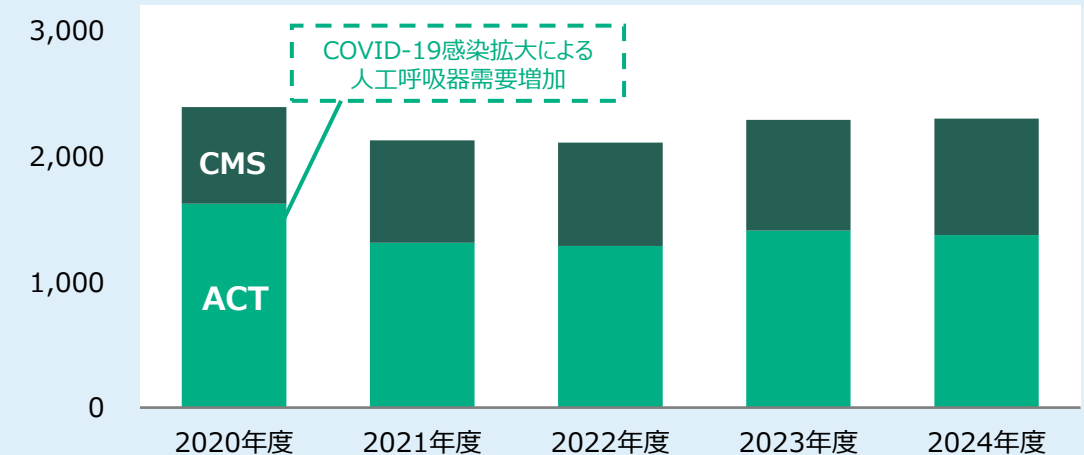
クリティカルケア



重点成長

- ACT^{*1}における除細動器やAED等のシェア拡大による堅実な成長
- CMS^{*2}における、LifeVestの潜在市場への浸透
- 睡眠時無呼吸症診断・治療デバイス（Itamar、Respicardia）等の新規機器の需要創出、および収益拡大

（百万ドル）

■ ACTとCMSの売上高推移（ドルベース）^{*3}

^{*1} Acute Care Technology : 除細動器、AED、心肺蘇生関連、体温管理、ソフトウェアソリューション等

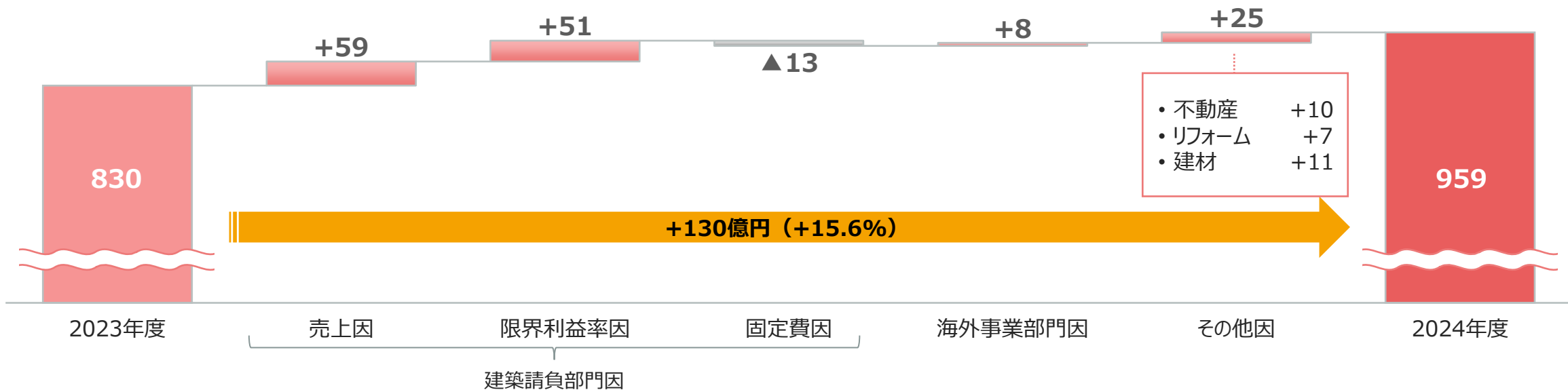
^{*2} Cardiac Management Solutions : 着用型自動除細動器「LifeVest」、心疾患診断・管理等

^{*3} 2023年度以前の実績については、参考情報として現在の事業区分に簡便的に組み替えて表示している

建築請負部門における平均単価上昇による売上因やコストダウンも加えた限界利益率因が向上したこと等により、増益

■ 営業利益増減要因分析

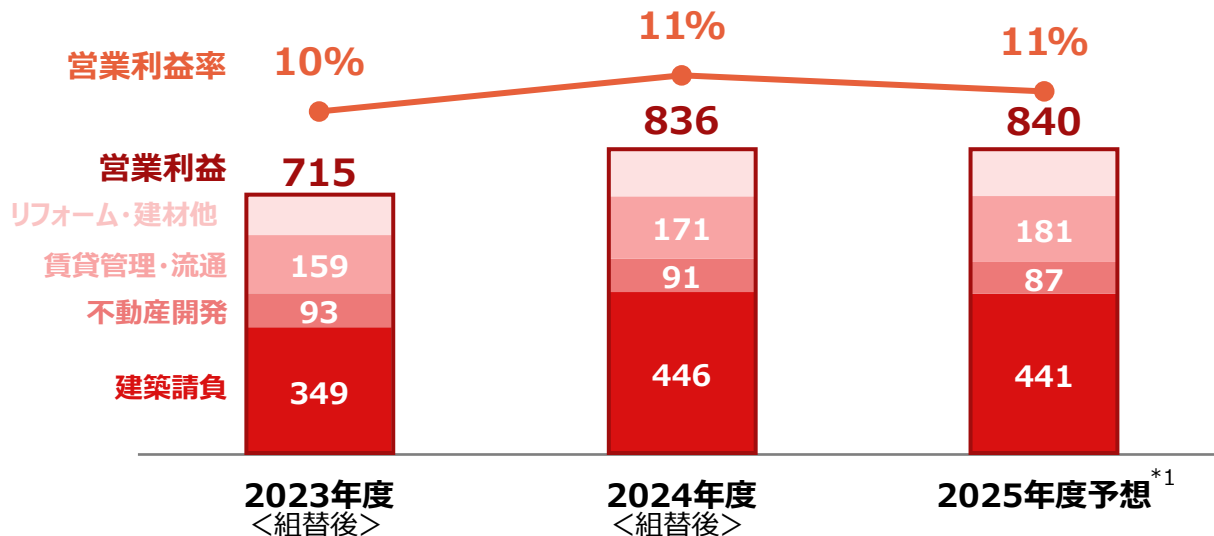
(億円)



	売上高				営業利益								
	2023年度	2024年度	増減額	増減率	2023年度	2024年度	増減額	増減率	内訳				
									建築請負部門			海外事業部門因	その他因
									売上因	限界利益率因	固定費因		
住宅セグメント	9,544	10,359	815	+8.5%	830	959	130	+15.6%	59	51	-13	8	25
住宅事業	9,129	9,935	806	+8.8%	795	913	118	+14.9%	59	51	-13	8	14 ^{*1}
建材事業	415	423	8	+2.0%	34	46	11	+33.2%	-	-	-	-	11

*1 不動産、リフォーム、その他

■ 営業利益の推移（億円）



■ 営業利益の主な変動要因

2024年度 vs 2023年度	↗	● 建築請負：数量は減少したが、物件の大型化・高付加価値化による平均単価の上昇やコストダウンによる限界利益率の改善により、増益 ● 不動産開発：都心部のマンション販売が多かった前期比で構成差は悪化したが、販売戸数の増加により、利益は横ばい ● 賃貸管理・不動産流通：順調に管理戸数が増加し、増益
2025年度 vs 2024年度	→	● 建築請負：労務費等の固定費増加を見込むが、平均単価の上昇により、利益は横ばい ● 不動産開発：マンション販売戸数の減少の一方、構成差の改善により、利益は横ばい ● 賃貸管理・不動産流通：順調な管理戸数増加により、増益

不動産開発



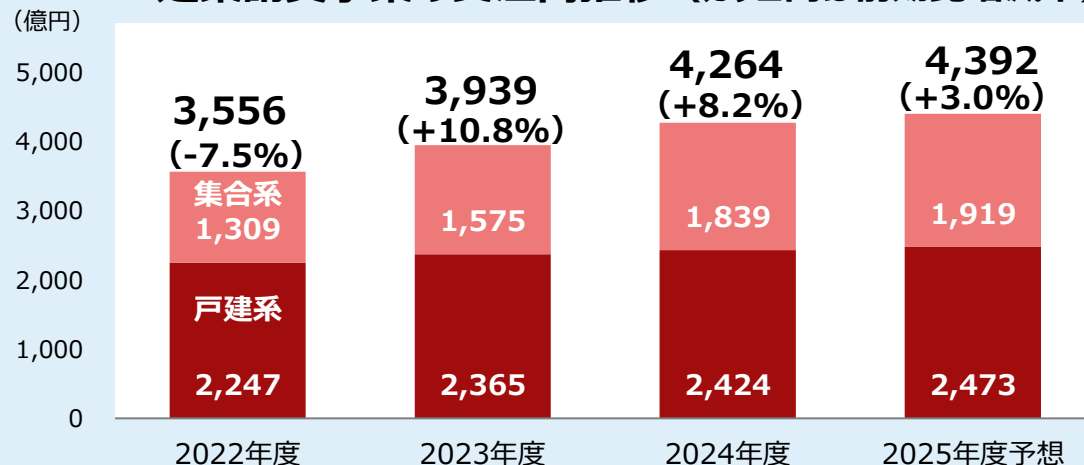
- 土地仕入れ力強化および土地を活用したビジネスの拡大

建築請負、賃貸管理・不動産流通、リフォーム、建材



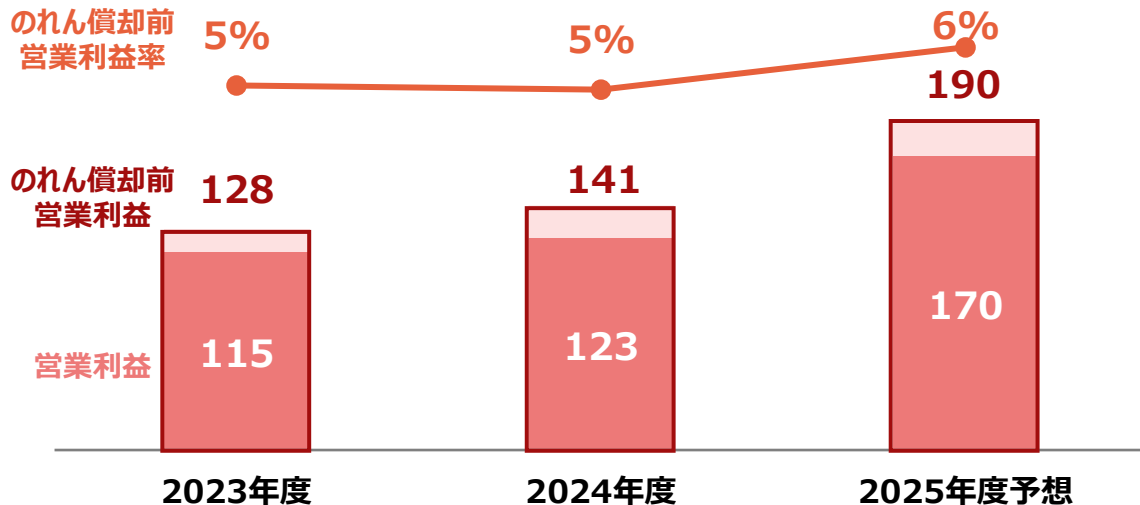
- 建築請負事業における、大型化・高付加価値化、集合住宅事業を拡大することによる、収益力の強化

■ 建築請負事業の受注高推移（カッコ内は前期比増減率）



*1 2025年度より全社共通費の配賦比率を変更したことに伴い、住宅事業で▲12億円、建材事業で▲3億円の減益要因となっている。詳細は19ページ参照

■ 営業利益の推移（億円）



■ 営業利益の主な変動要因

2024年度 vs 2023年度	↑	● 北米：ODCの連結影響があったが、円安に加えて、住宅需要が落ち込んだ前期に対して数量が回復し、増益 ● 豪州：円安に加えて、価格転嫁が進捗し、増益
2025年度 vs 2024年度	↑	● 北米：住宅需要の改善や、ODCが利益貢献することにより、増益 ● 豪州：住宅需要の緩やかな改善を見込み、増益

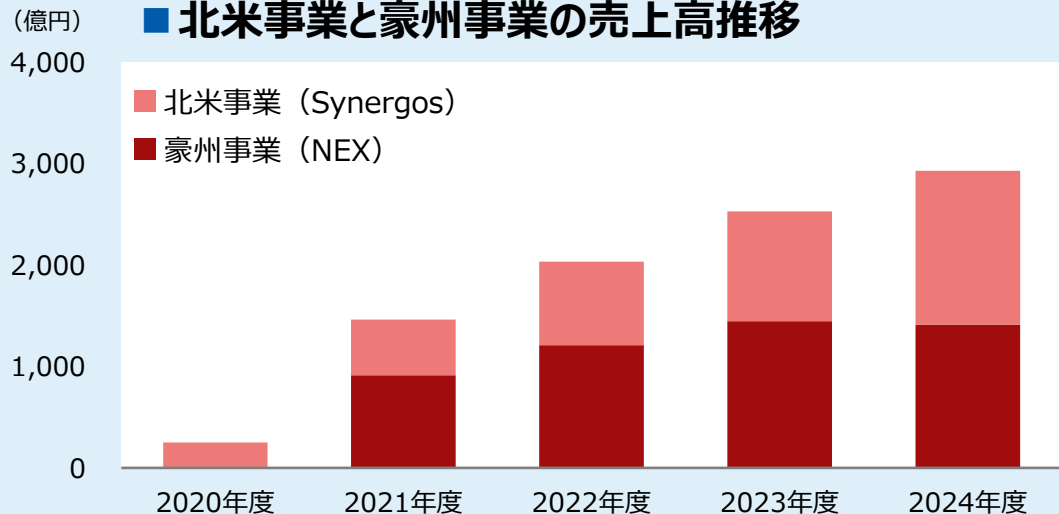
海外住宅



重点成長

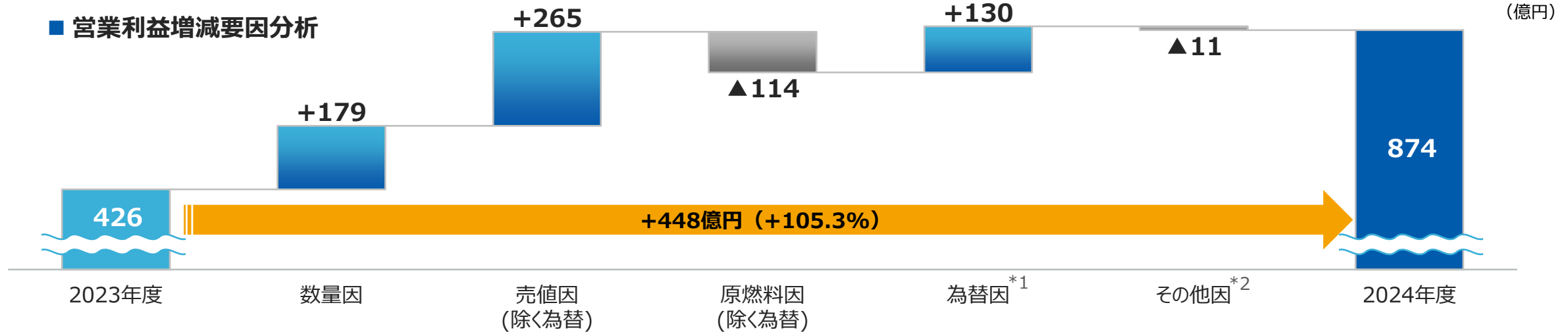
- 北米事業における、サプライヤーを水平統合することによって建築工程の中核となる業種を統合し、工期短縮や高品質な住まいの提供を目指すビジネスモデル（Synergosモデル）の強化。エリア拡大における持続的成長
- 豪州事業における、更なるシェア拡大、および業務プロセス改善による収益性・資本効率の改善

■ 北米事業と豪州事業の売上高推移



ライフイノベーション事業を中心とした数量因や、原燃料コストを踏まえた適正なプライシングによる売値因、円安による為替因のプラスにより、増益

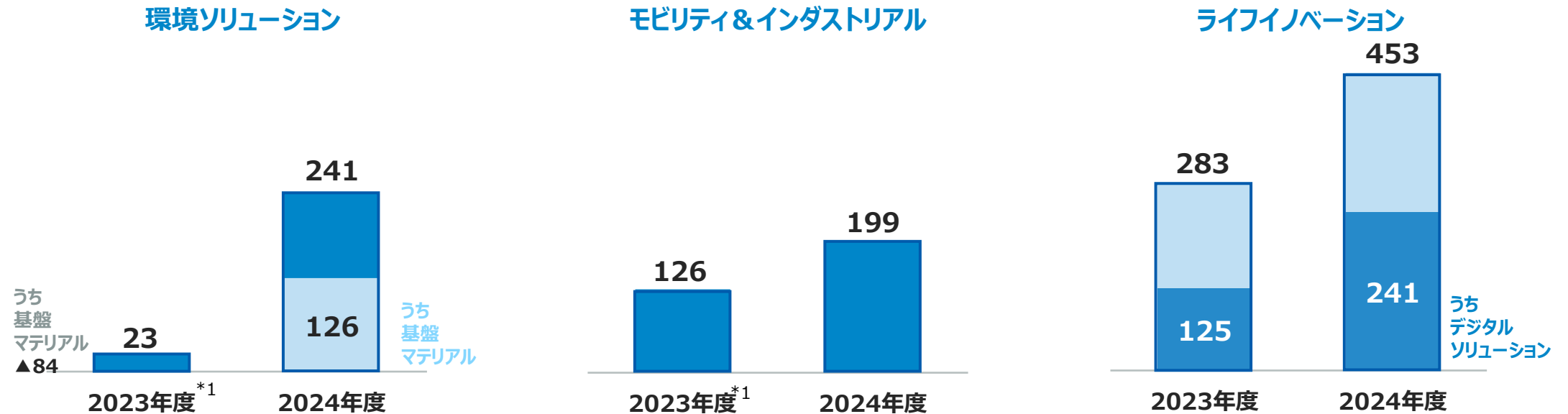
■ 営業利益増減要因分析



	売上高				営業利益								
	2023年度 ^{*4}	2024年度	増減額	増減率	2023年度 ^{*4}	2024年度	増減額	増減率	内訳				
									数量因	売値因 (除く為替)	原燃料因 (除く為替)	為替因 ^{*1}	その他因 ^{*2}
マテリアルセグメント	12,617	13,688	1,070	+8.5%	426	874	448	+105.3%	179	265	-114	130	-11
環境ソリューション事業	5,020	5,477	456	+9.1%	23	241	219	+956.1%	-11	182	-73	54	67 ^{*3}
うち 基盤マテリアル事業	2,935	3,219	283	+9.6%	-84	126	210	-					
モビリティ&インダストリアル事業	3,747	4,067	320	+8.5%	126	199	74	+58.6%	21	91	-36	31	-33
ライフイノベーション事業	3,847	4,139	291	+7.6%	283	453	170	+60.0%	169	-8	20	45	-56
うち デジタルソリューション事業	1,285	1,467	183	+14.2%	125	241	116	+92.2%					
マテリアル共通	3	5	3	+95.7%	-6	-20	-14	-	-	-	-25 ^{*3}	-	11 ^{*3}

*1 売値因・原燃料因に関連する為替因 *2 為替換算差、固定費差、在庫影響等 *3 環境ソリューションの営業利益の「その他因」には社内売値差が含まれているが、マテリアル全体としては「原燃料因」に含まれるものであるため、要因分析の補正として、相当する額をマテリアル共通の「原燃料因」と「その他因」にそれぞれプラスとマイナスで含めて表示している *4 2024年度より、従来「モビリティ&インダストリアル事業」に含めていた一部事業を、「環境ソリューション事業」へ移管している。それに伴い、2023年度の実績について開示区分変更を反映した数値を記載している

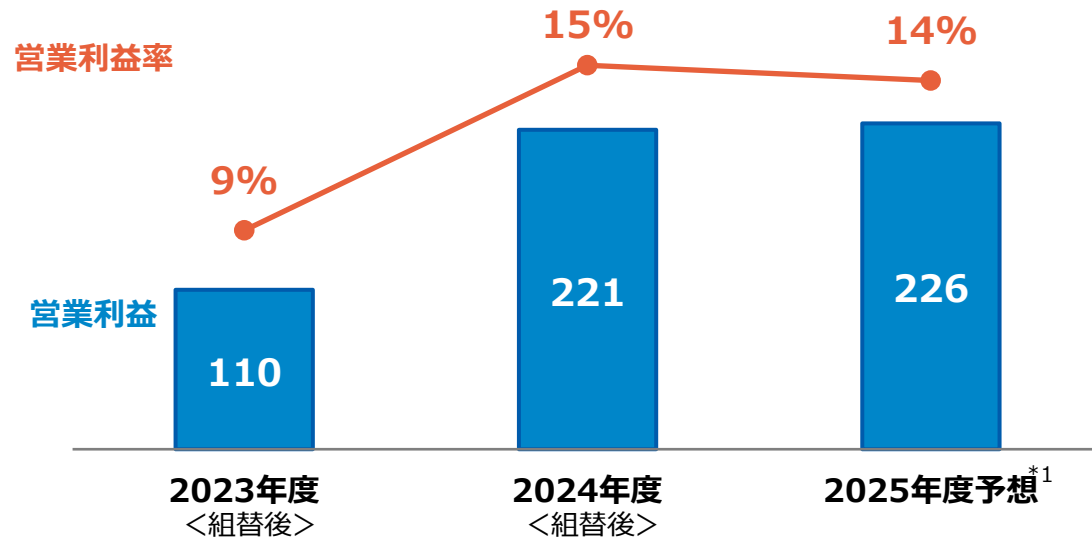
■ 営業利益（億円）



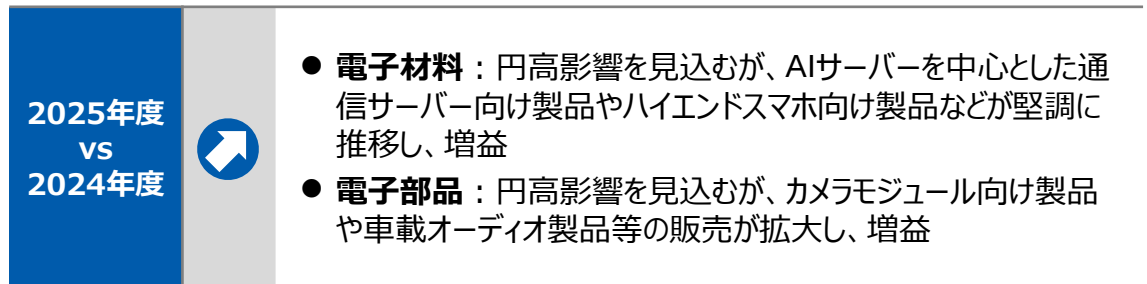
主な事業		2024年度 vs 2023年度 (YoY)	
環境ソリューション	セパレータ	↓	民生用途を中心にLIB用セパレータの販売量は増加した一方、分社や北米投資に伴う費用の増加や経時的な価格対応等により、減益
	基盤マテリアル	↑	石化市況上昇による交易条件の改善や固定費低減等により、増益
モビリティ&インダストリアル	自動車内装材	↑	価格転嫁や円安による交易条件の改善、中国向けのPVC合成皮革の販売量の増加等により、増益
	エンジニアリング樹脂	↑	価格転嫁や円安による交易条件の改善により、増益
ライフイノベーション	デジタルソリューション	↑	AIサーバーやハイエンドスマホ向け電子材料、カメラモジュール向け電子部品等が堅調に推移したことに加え、円安影響もあり、増益

*1 2024年度より、従来「モビリティ&インダストリアル事業」に含めていた一部事業を、「環境ソリューション事業」へ移管している。それに伴い、2023年度の実績について開示区分変更を反映した数値を記載している

■ 営業利益の推移（億円）



■ 営業利益の主な変動要因

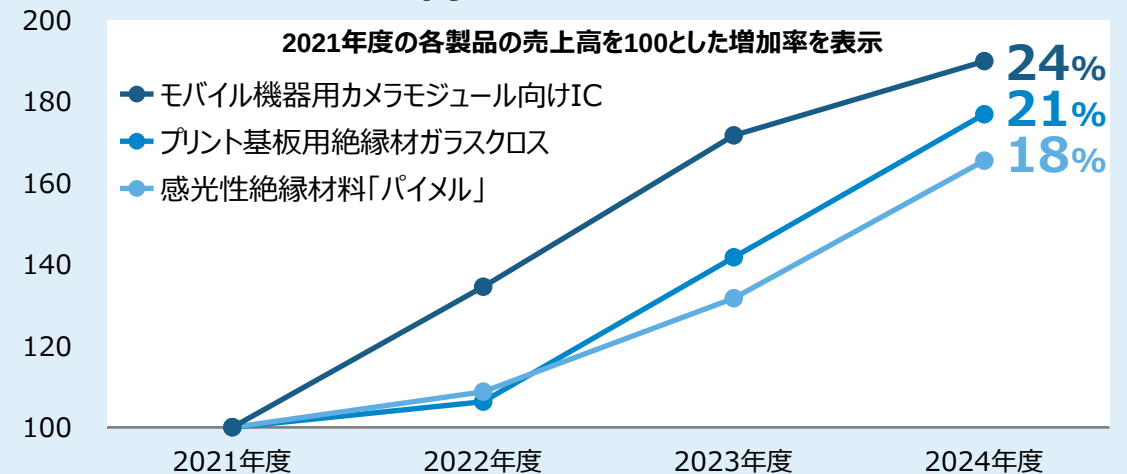


エレクトロニクス



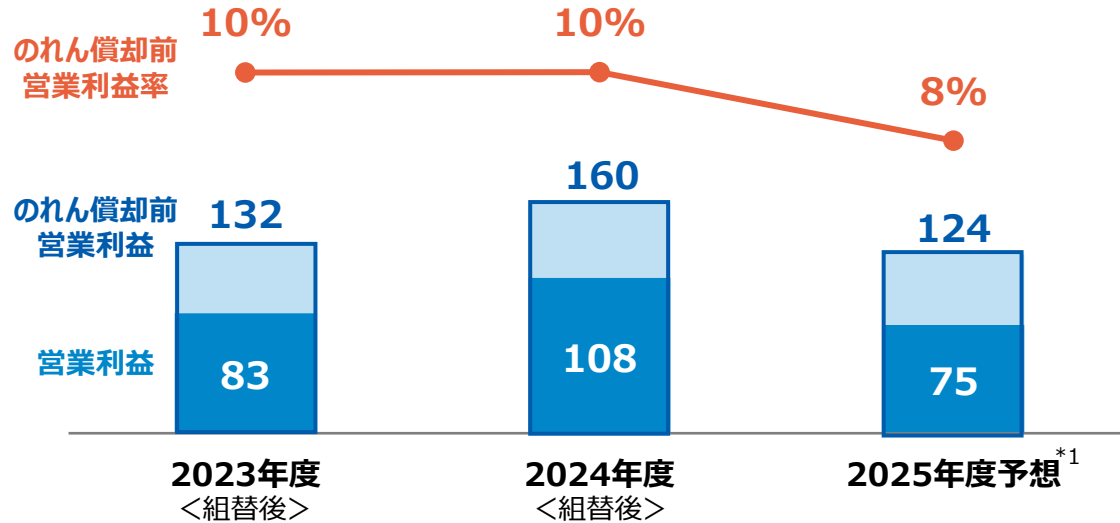
- 電子材料における、半導体チップ、基板・実装工程材料での実績をベースとした“先端半導体パッケージ市場”に最適な材料の提案
- 特に、パイメル（半導体保護膜／層間絶縁膜）は、拡大するAIサーバー向け等最先端半導体の旺盛な需要に合わせて、生産能力を増強
- 新規電子材料の開発および事業化の推進

■ 主力製品の売上高CAGR（2021年度→2024年度）

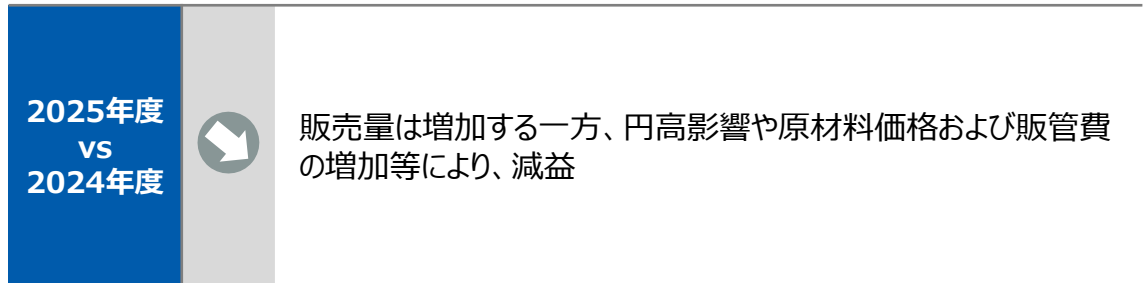


*1 2025年度より全社共通費の配賦比率を変更したことに伴い、エレクトロニクス事業で▲5億円の減益要因となっている。詳細は19ページ参照

■ 営業利益の推移（億円）



■ 営業利益の主な変動要因

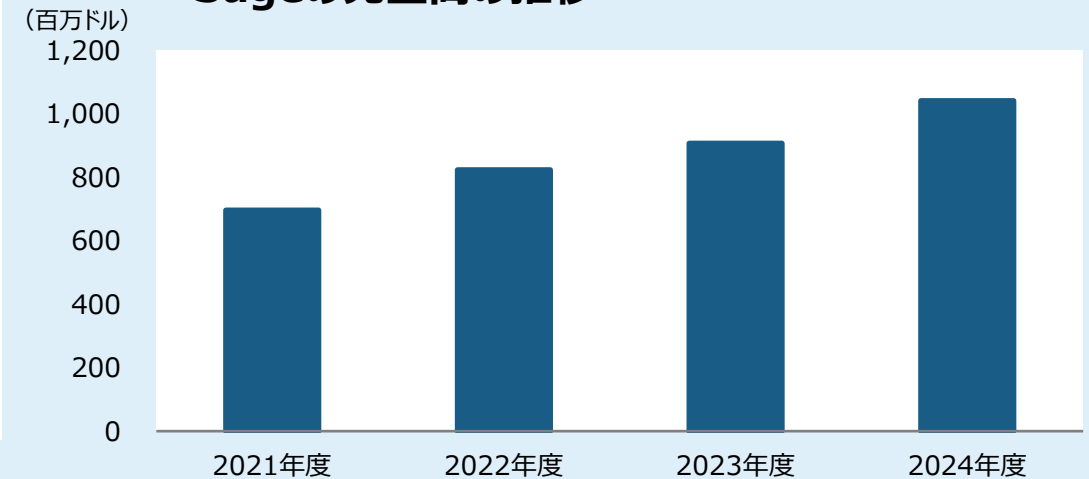


カーインテリア



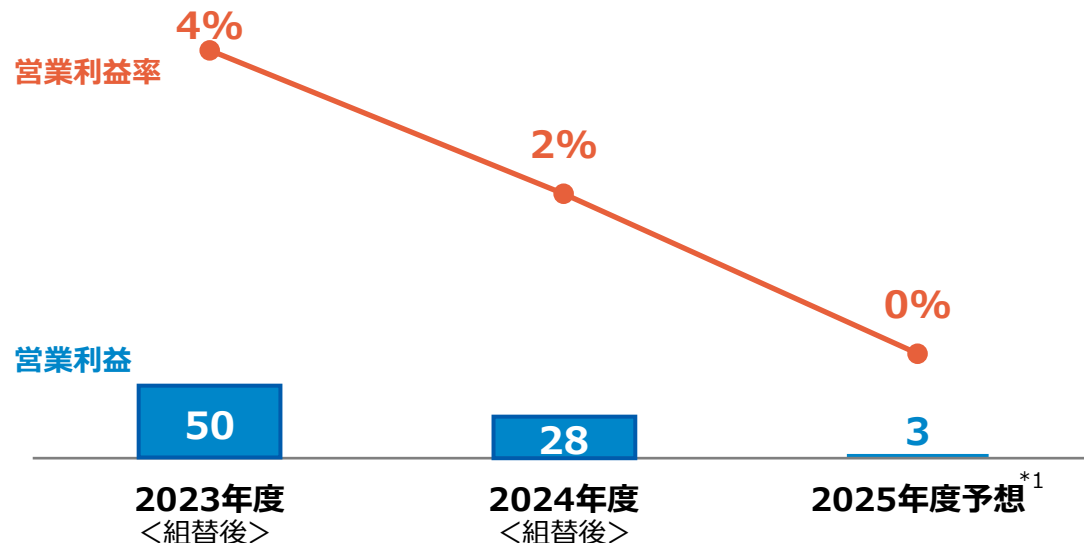
- 顧客ニーズに合わせた商品ラインナップと革新的なデザイン、先進の加飾・後加工技術を強みとしたソリューション型事業としての着実な利益成長
- 米国、欧州、日本、中国と地域ごとに適地生産体制を整備し、プラットフォーム構築を推進

■ Sageの売上高の推移

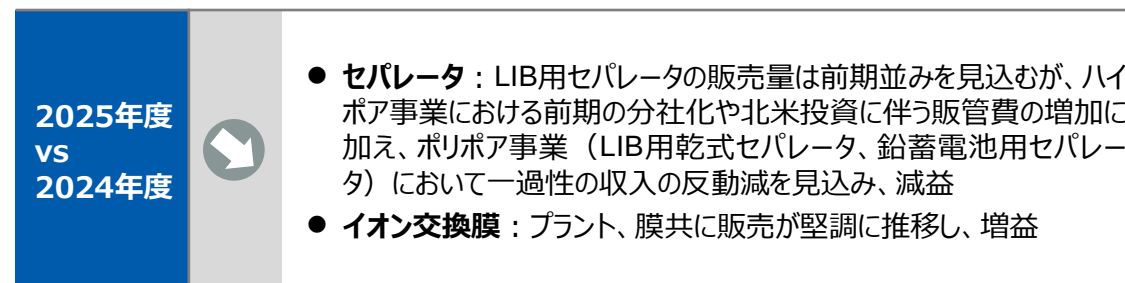


*1 2025年度より全社共通費の配賦比率を変更したことに伴い、カーインテリア事業で▲1億円の減益要因となっている。詳細は19ページ参照

■ 営業利益の推移（億円）



■ 営業利益の主な変動要因



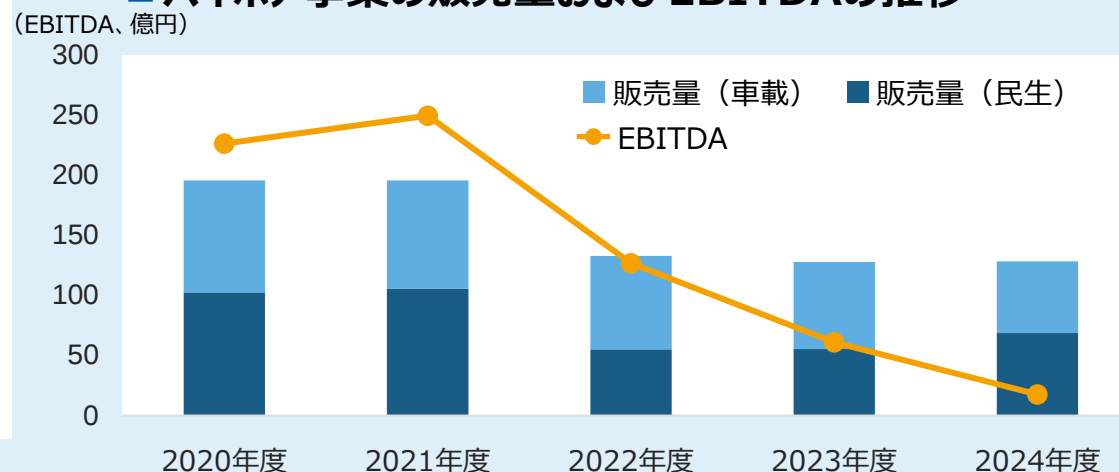
エネルギー&インフラ



戦略的育成

- セパレータ事業における、ハイポア（LIB用湿式セパレータ）の需要回復に応じた収益改善。北米工場の稼働は2027年度下期より、本格的な収益貢献は2028年度より想定
- イオン交換膜法食塩電解事業の拡大に向けた生産能力増強、および長年培ってきた事業基盤をベースとしたソリューション型事業としての安定的な利益成長

■ ハイポア事業の销售量およびEBITDAの推移



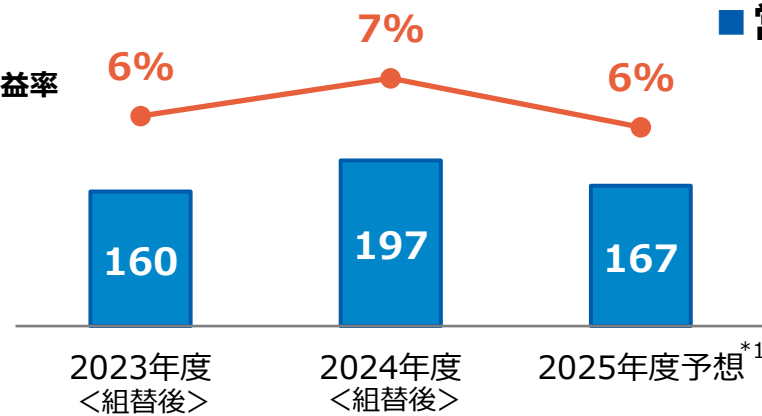
*1 2025年度より全社共通費の配賦比率を変更したことに伴い、エネルギー&インフラ事業で▲7億円の減益要因となっている。詳細は19ページ参照

■ 営業利益の推移（億円）

■ 営業利益 ■ 営業利益率

収益基盤維持・拡大

コンフォートライフ



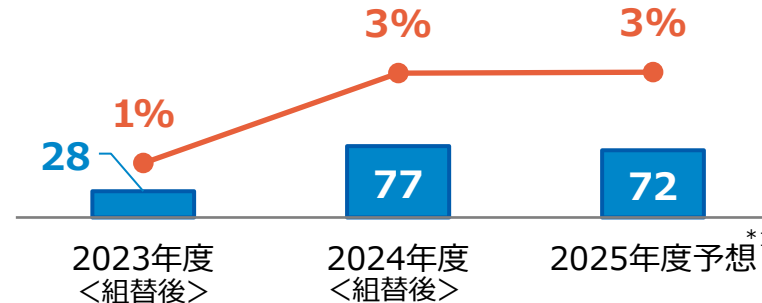
■ 営業利益の主な変動要因

2025年度
vs
2024年度

円高影響に加え、工場の新規稼働や定修等の固定費の増加を見込み、減益

収益改善・事業モデル転換

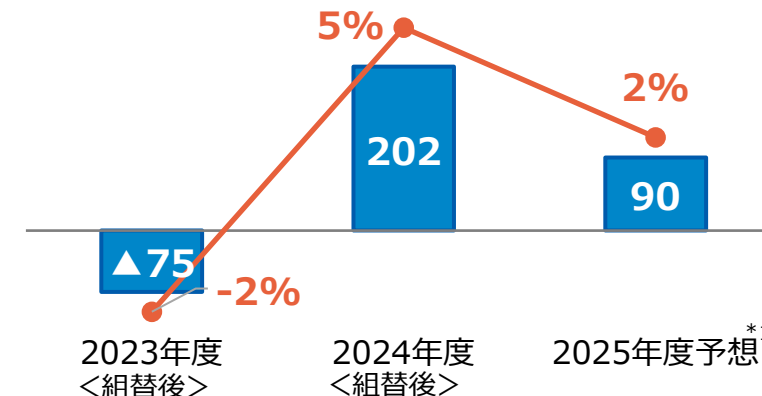
パフォーマンスケミカル

2025年度
vs
2024年度

円高影響および交易条件の悪化、機能性コーティング事業における販売量の減少により、減益

収益改善・事業モデル転換

エッセンシャルケミカル

2025年度
vs
2024年度

円高影響や石化市況の下落に伴う在庫受払差、定修影響により、減益

*1 2025年度より全社共通費の配賦比率を変更したことに伴い、コンフォートライフ事業で▲6億円、パフォーマンスケミカル事業で▲5億円、エッセンシャルケミカル事業で▲10億円の減益要因となっている。詳細は19ページ参照

売上高詳細（新開示区分）

AsahiKASEI

(億円)

			2023年度 ＜組替後＞			2024年度 ＜組替後＞			2025年度 予想	23年度vs24年度 増減率	24年度vs25年度 増減率
	上期	下期		上期	下期		上期予想	下期予想			
ヘルスケアセグメント	2,665	2,873	5,538	2,927	3,232	6,159	3,000	3,130	6,130	+11.2%	-0.5%
医薬・ライフサイエンス事業	1,009	1,075	2,084	1,135	1,317	2,452	1,160	1,180	2,340	+17.7%	-4.6%
医薬事業	563	595	1,158	662	860	1,522	920	920	1,840	+31.4%	+20.9%
ライフサイエンス事業	445	480	926	473	457	930	240	260	500	+0.5%	-46.3%
クリティカルケア事業	1,657	1,797	3,454	1,792	1,915	3,707	1,840	1,950	3,790	+7.3%	+2.2%
住宅セグメント	4,626	4,918	9,544	5,052	5,307	10,359	5,510	5,680	11,190	+8.5%	+8.0%
住宅事業	4,406	4,722	9,129	4,842	5,093	9,935	5,290	5,450	10,740	+8.8%	+8.1%
建築請負事業	1,956	2,054	4,010	1,940	2,255	4,195	2,120	2,290	4,410	+4.6%	+5.1%
不動産開発事業	122	337	459	336	191	527	250	225	475	+14.9%	-9.8%
賃貸管理・流通事業	749	809	1,557	808	873	1,681	920	945	1,865	+7.9%	+11.0%
リフォーム事業	279	283	563	280	297	578	310	340	650	+2.7%	+12.5%
海外住宅事業	1,294	1,233	2,528	1,464	1,466	2,930	1,725	1,675	3,400	+15.9%	+16.0%
その他	6	7	13	13	11	24	-35	-25	-60	+86.9%	-
建材事業	220	195	415	209	214	423	220	230	450	+2.0%	+6.3%
マテリアルセグメント	6,102	6,515	12,617	6,857	6,831	13,688	6,520	7,140	13,660	+8.5%	-0.2%
エレクトロニクス事業	610	674	1,285	725	743	1,467	740	820	1,560	+14.2%	+6.3%
カーインテリア事業	658	665	1,323	778	815	1,593	740	790	1,530	+20.4%	-4.0%
エナジー & インフラ事業	650	684	1,333	702	680	1,382	660	780	1,440	+3.6%	+4.2%
コンフォートライフ事業	1,265	1,298	2,563	1,298	1,373	2,671	1,330	1,490	2,820	+4.2%	+5.6%
パフォーマンスケミカル事業	1,186	1,238	2,424	1,264	1,209	2,474	1,130	1,180	2,310	+2.1%	-6.6%
エッセンシャルケミカル事業	1,711	1,936	3,647	2,070	1,973	4,043	1,890	2,050	3,940	+10.9%	-2.5%
マテリアル共通	22	21	43	20	37	57	30	30	60	+33.4%	+5.3%
その他	66	84	150	67	101	168	90	100	190	+12.2%	+13.2%
合 計	13,459	14,390	27,849	14,903	15,470	30,373	15,120	16,050	31,170	+9.1%	+2.6%

営業利益詳細（新開示区分）

AsahiKASEI

(億円)

	2023年度 ＜組替後＞			2024年度 ＜組替後＞			2025年度*1 予想			23年度vs24年度 増減率	24年度vs25年度 増減率
	上期	下期		上期	下期		上期予想	下期予想			
ヘルスケアセグメント	198	287	485	332	308	640	329	341	670	+32.0%	+4.6%
医薬・ライフサイエンス事業	75	114	189	143	124	266	142	122	264	+40.8%	-0.9%
クリティカルケア事業	123	173	296	189	185	374	187	219	406	+26.4%	+8.6%
住宅セグメント	354	476	830	436	523	959	480	530	1,010	+15.6%	+5.3%
住宅事業	327	468	795	419	494	913	458	503	961	+14.9%	+5.2%
建築請負事業	149	200	349	152	294	446	182	259	441	+27.7%	-1.1%
不動産開発事業	9	84	93	68	23	91	64	23	87	-2.0%	-4.6%
賃貸管理・流通事業	78	81	159	83	88	171	92	89	181	+7.2%	+6.0%
リフォーム事業	32	34	66	34	40	74	34	44	78	+11.3%	+6.0%
海外住宅事業	51	64	115	80	43	123	86	84	170	+6.8%	+38.5%
その他	8	5	13	3	7	10	1	4	4	-25.8%	-53.2%
建材事業	26	8	34	17	29	46	22	27	49	+33.2%	+7.2%
マテリアルセグメント	146	217	363	464	335	799	238	422	660	+120.3%	-17.4%
エレクトロニクス事業	45	65	110	118	104	221	100	126	226	+100.4%	+2.1%
カーインテリア事業	48	35	83	57	51	108	27	48	75	+29.3%	-30.5%
エナジー & インフラ事業	34	16	50	15	13	28	0	3	3	-42.6%	-89.5%
コンフォートライフ事業	67	93	160	109	88	197	73	94	167	+23.1%	-15.3%
パフォーマンスケミカル事業	9	19	28	55	22	77	32	40	72	+171.5%	-6.1%
エッセンシャルケミカル事業	-68	-7	-75	126	76	202	5	85	90	-	-55.5%
マテリアル共通	11	-5	6	-15	-20	-35	1	26	27	-	-
その他	16	16	32	8	21	29	13	17	30	-7.3%	+2.4%
消去又は全社	-155	-146	-301	-152	-157	-309	-110	-110	-220	-	-
合 計	559	849	1,407	1,089	1,030	2,119	950	1,200	2,150	+50.6%	+1.5%

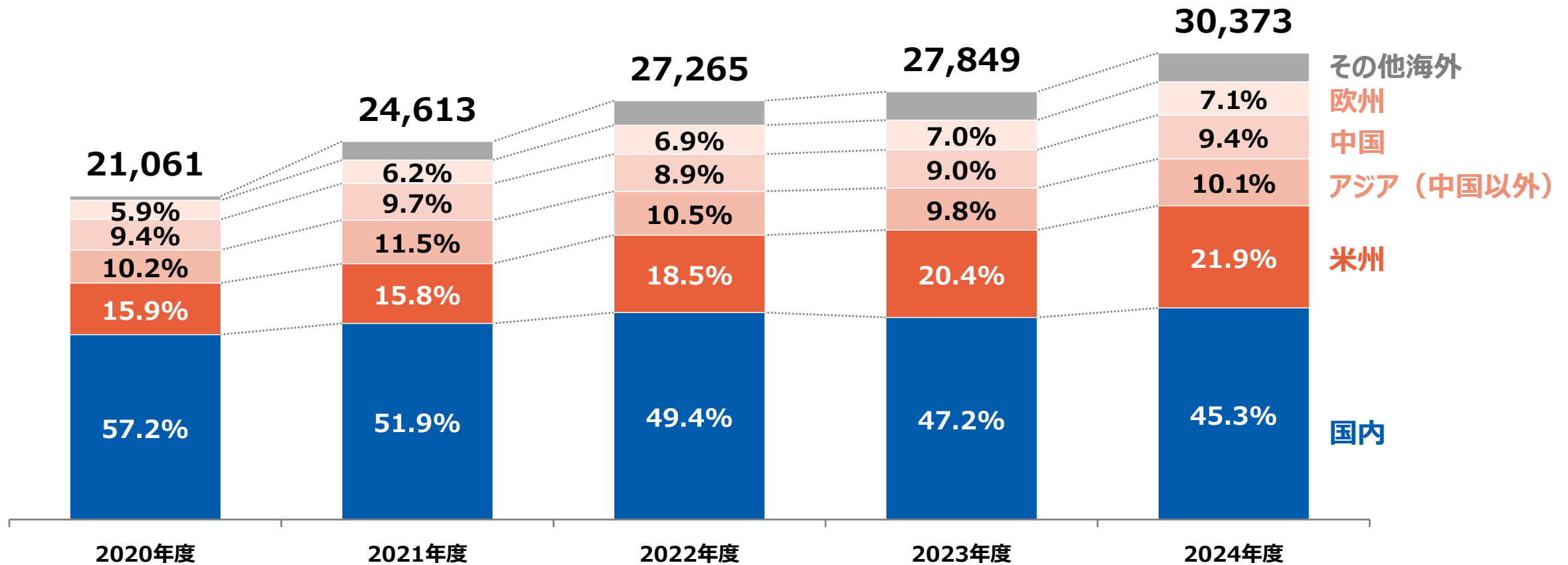
*1 2025年度より全社共通費の配賦比率を変更したことに伴い、ヘルスケアで▲10億円、住宅で▲16億円、マテリアルで▲38億円の減益要因となり、消去又は全社で+64億円の増益要因となっている。詳細は19ページ参照

4. 参考資料

海外売上高*1

- | 前期比では、円安影響もあり海外売上高が増加
- | なお、近年は米国における「ヘルスケア」や「住宅」のM&A等により、米州の売上高比率が上昇

(億円)



*1 2021年度より「収益認識に関する会計基準」を適用し、一部の取引において売上高及び売上原価の計上基準を変更している

償却費

(億円)

	減価償却費 ^{*1}					のれん償却費		
	2023年度 ^{*2}	うち 買収に係る 無形固定資産の 償却費 ^{*3}	2024年度	うち 買収に係る 無形固定資産の 償却費 ^{*3}	2025年度 予想	2023年度	2024年度	2025年度 予想
ヘルスケアセグメント	472	268	547	325	550	230	253	250
医薬・医療	243	144	306	196		50	65	
クリティカルケア	229	124	242	129		180	188	
住宅セグメント	201	44	207	50	220	13	19	20
住宅	178	44	184	50		13	19	
建材	23	-	23	-		-	-	
マテリアルセグメント	720	40	641	41	740	53	55	50
環境ソリューション	321	2	275	2		2	2	
モビリティ&インダストリアル	186	37	179	39		49	53	
ライフイノベーション	212	1	185	-		2	-	
マテリアル共通	2	-	2	-		-	-	
その他	9	-	11	-	10	-	-	-
消去又は全社	124	-	129	-	140	-	-	-
合 計	1,526	351	1,535	415	1,660	296	326	320

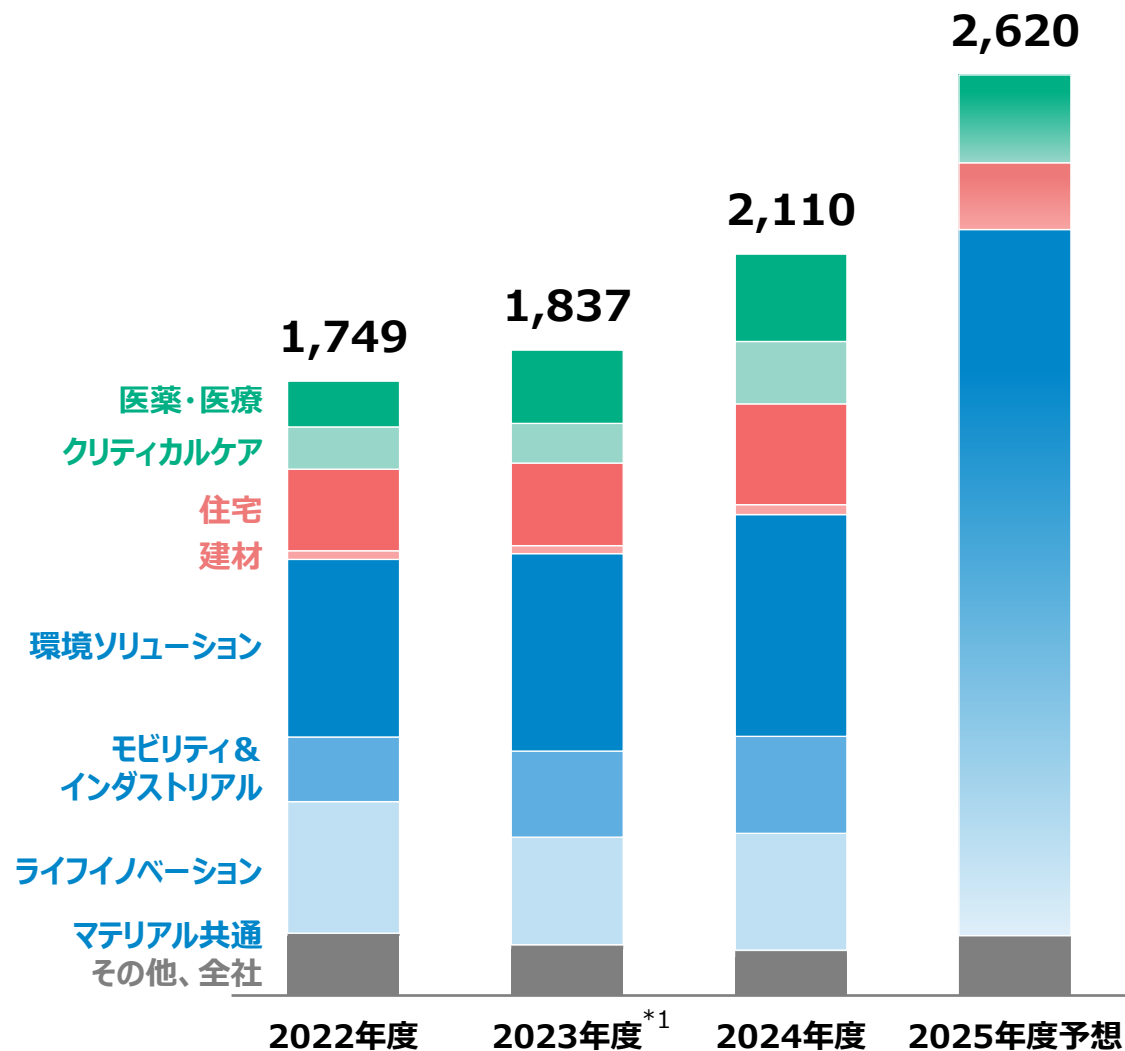
*1 有形固定資産、無形固定資産（除く、のれん）の償却額を合算した金額で開示している

*2 2024年度より、従来「モビリティ&インダストリアル事業」に含めていた一部事業を、「環境ソリューション事業」へ移管している。それに伴い、2023年度の実績について開示区分変更を反映した数値を記載している

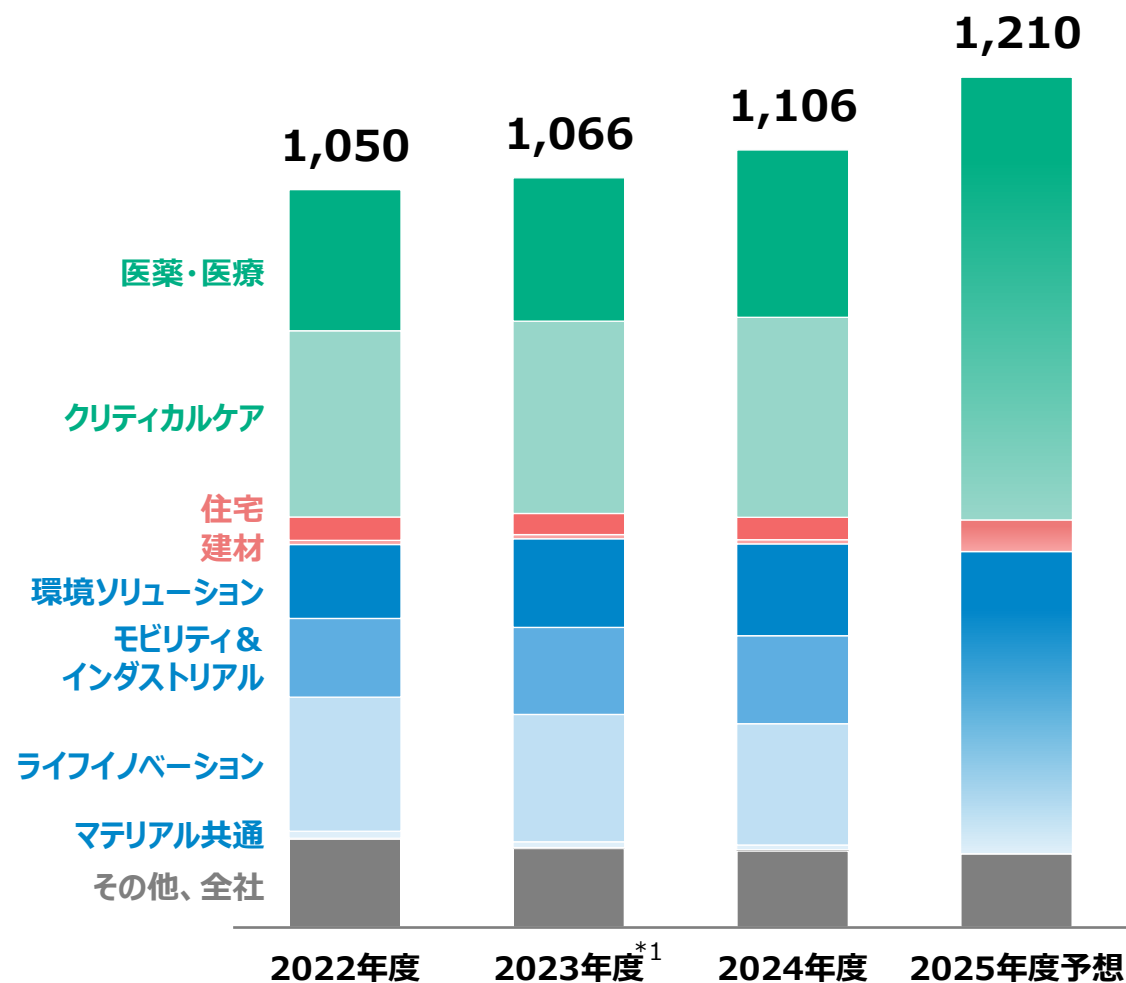
*3 買収時のPPAにおいて無形固定資産に配分された金額に係る償却額を開示している

設備投資額、研究開発費

■ 設備投資額の推移（億円）



■ 研究開発費の推移（億円）



^{*1} 2024年度より、従来「モビリティ&インダストリアル事業」に含めていた一部事業を、「環境ソリューション事業」へ移管している。それに伴い、2023年度の実績について開示区分変更を反映した数値を記載している

主な設備投資案件

(2022年度～)

セグメント	サブセグメント	設備投資件名	能力	立地	完工時期							
					Y22上	FY22下	FY23上	FY23下	FY24上	FY24下	FY25上	FY25下
ヘルスケア	医薬・医療	ウイルス除去フィルター「プラノバBioEX」の紡糸能力増強	—	大分県大分市	22年下期完工							
		ウイルス除去フィルター「プラノバ」の新組立工場建設	—	宮崎県延岡市	24年5月完工							
		バイオ医薬品CDMOのBionovaの能力増強	—	米国カリフォルニア州	25年度下期以降完工予定							
		バイオ医薬品CDMOのBionovaのプラスミド製造における新規施設建設	—	米国テキサス州	プロセス開発：25年度上期完工予定 GMP製造*2：25年度下期以降完工予定							
マテリアル	環境ソリューション	水力発電所改修（水ヶ崎発電所）	—	宮崎県西臼杵郡	25年度上期完工予定							
		リチウムイオン電池用セパレータ「ハイボア」の生産能力増強	約3.5億㎡／年	宮崎県日向市	24年度下期完工							
		リチウムイオン電池用セパレータ「ハイボア」の塗工能力増強	約6億㎡／年	米国ノースカロライナ州、宮崎県日向市	26年度上期完工予定							
		リチウムイオン電池用セパレータ「ハイボア」の製膜・塗工一貫ライン建設	約7億㎡／年*1	カナダオンタリオ州	27年完工予定							
	モビリティ&インダストリアル	人工皮革「Dinamica」の生産設備増設	約400万㎡／年	宮崎県延岡市	22年度上期完工							
	ライフイノベーション	結晶セルロース「セオラス」の工場建設	—	岡山県倉敷市	22年下期完工							
		感光性絶縁材料「パイメル」の生産能力増強	—	静岡県富士市	24年下期完工							

*1 塗工膜換算 *2 医薬品製造業者が遵守すべき製造管理および品質管理の基準（GMP）に準拠して医薬品の製造をすること

主なM&A案件

(2022年度～)

セグメント	サブセグメント	企業名	事業内容	買収金額	のれん発生額	業績貢献（PL連結開始）							
						FY22上	FY22下	FY23上	FY23下	FY24上	FY24下	FY25上	FY25下
ヘルスケア	医薬・医療	Bionova Holdings, Inc.	バイオ医薬品製薬企業への製造プロセス開発受託等	429億円	355億円	22年7月							
		Calliditas Therapeutics AB	医薬・医療関連製品の開発、製造販売等	1,678億円	456億円						24年10月		
住宅	住宅	Focus 等5社	北米における住宅の建築工事	362億円	128億円		22年11月						
		ODC Construction, LLC	北米における住宅の建築工事	350億円	170億円						24年9月		

主な構造転換の進捗状況

(2022年度～)

セグメント	サブセグメント	案件	実行時期							
			FY22上	FY22下	FY23上	FY23下	FY24上	FY24下	FY25上	FY25下
ヘルスケア	医薬・医療	セパセル（白血球除去フィルター）事業の事業撤収	23年11月中国子会社譲渡			数年内に事業撤収予定				
		血液浄化事業の事業譲渡	25年4月譲渡							
		診断薬事業等の譲渡	25年7月譲渡予定							
住宅	建材	岩国工場（ALCパネル生産拠点）の閉鎖	25年3月末閉鎖予定							
マテリアル	環境ソリューション	PTT Asahi Chemicalにおけるアクリロニトリル事業等の撤退	24年12月販売終了			工場設備の撤去工事				
	ライフイノベーション	フォトマスク用ペリクル事業の事業譲渡	23年7月譲渡							
		スパンボンド不織布事業における三井化学（株）との共同事業会社設立	23年10月設立・非連結化							
		旭化成パックス（容器事業、フィルム事業）の事業譲渡	23年10月容器事業譲渡			24年4月フィルム事業譲渡				

四半期売上高推移

AsahiKASEI

(億円)

	2022年度				2023年度				2024年度			
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q ^{*1}	2Q ^{*1}	3Q ^{*1}	4Q ^{*1}	1Q	2Q	3Q	4Q
マテリアルセグメント	3,394	3,394	3,270	3,108	2,968	3,134	3,289	3,226	3,505	3,352	3,379	3,451
環境ソリューション事業	1,499	1,414	1,368	1,318	1,162	1,218	1,348	1,292	1,469	1,323	1,303	1,382
うち 基盤マテリアル事業	1,001	873	887	859	662	721	808	744	880	784	753	801
モビリティ&インダストリアル事業	925	997	940	923	901	943	941	962	1,042	1,000	1,019	1,006
ライフイノベーション事業	969	983	960	865	903	973	1,000	972	994	1,029	1,058	1,058
うち デジタルソリューション事業	342	323	299	261	294	317	331	343	357	368	378	365
マテリアル共通	2	2	2	2	2	0	0	0	-0	0	0	5
住宅セグメント	2,066	2,138	2,301	2,484	2,211	2,416	2,400	2,517	2,365	2,687	2,643	2,664
住宅	1,975	2,035	2,195	2,388	2,105	2,302	2,295	2,427	2,264	2,579	2,530	2,563
建材	92	103	107	96	106	114	105	90	101	108	113	101
ヘルスケアセグメント	1,214	1,241	1,286	1,228	1,294	1,371	1,455	1,417	1,458	1,470	1,622	1,610
医薬・医療	505	485	545	468	511	498	564	512	563	572	708	609
クリティカルケア	710	756	741	760	783	873	892	906	894	898	914	1,001
その他	30	35	34	41	34	31	38	46	32	36	45	55
合 計	6,704	6,808	6,892	6,861	6,507	6,952	7,182	7,207	7,359	7,544	7,689	7,781

*1 2024年度より、従来「モビリティ&インダストリアル事業」に含めていた一部事業を、「環境ソリューション事業」へ移管している。それに伴い、2023年度の実績について開示区分変更を反映した数値を記載している

四半期営業利益推移

(億円)

	2022年度				2023年度				2024年度			
	1Q	2Q	3Q ^{*1}	4Q ^{*1}	1Q ^{*2}	2Q ^{*2}	3Q ^{*2}	4Q ^{*2}	1Q	2Q	3Q ^{*3}	4Q
マテリアルセグメント	268	139	81	-77	76	101	130	118	266	236	192	180
環境ソリューション事業	102	24	-26	-122	-7	-9	22	17	99	66	31	45
うち 基盤マテリアル事業	83	12	-42	-85	-51	-29	-3	0	61	48	10	6
モビリティ&インダストリアル事業	52	39	5	12	30	37	14	45	56	61	25	58
ライフイノベーション事業	121	75	77	6	45	72	98	69	124	122	131	76
うち デジタルソリューション事業	67	38	32	5	20	33	40	33	62	66	67	47
マテリアル共通	-6	1	25	27	8	2	-4	-12	-12	-13	4	1
住宅セグメント	153	183	185	233	134	219	219	257	170	266	263	260
住宅	150	179	179	231	125	202	212	256	165	255	246	248
建材	3	4	6	1	9	17	7	1	5	12	17	11
ヘルスケアセグメント	148	110	114	46	96	103	158	129	156	176	178	131
医薬・医療	100	45	79	5	51	24	80	34	74	69	101	22
クリティカルケア	48	65	35	41	45	79	78	95	82	107	76	108
その他	6	12	8	17	6	10	6	9	2	6	7	14
消去又は全社	-81	-79	-86	-102	-94	-92	-87	-91	-95	-94	-91	-103
合 計	494	364	303	117	218	341	426	422	499	590	549	481

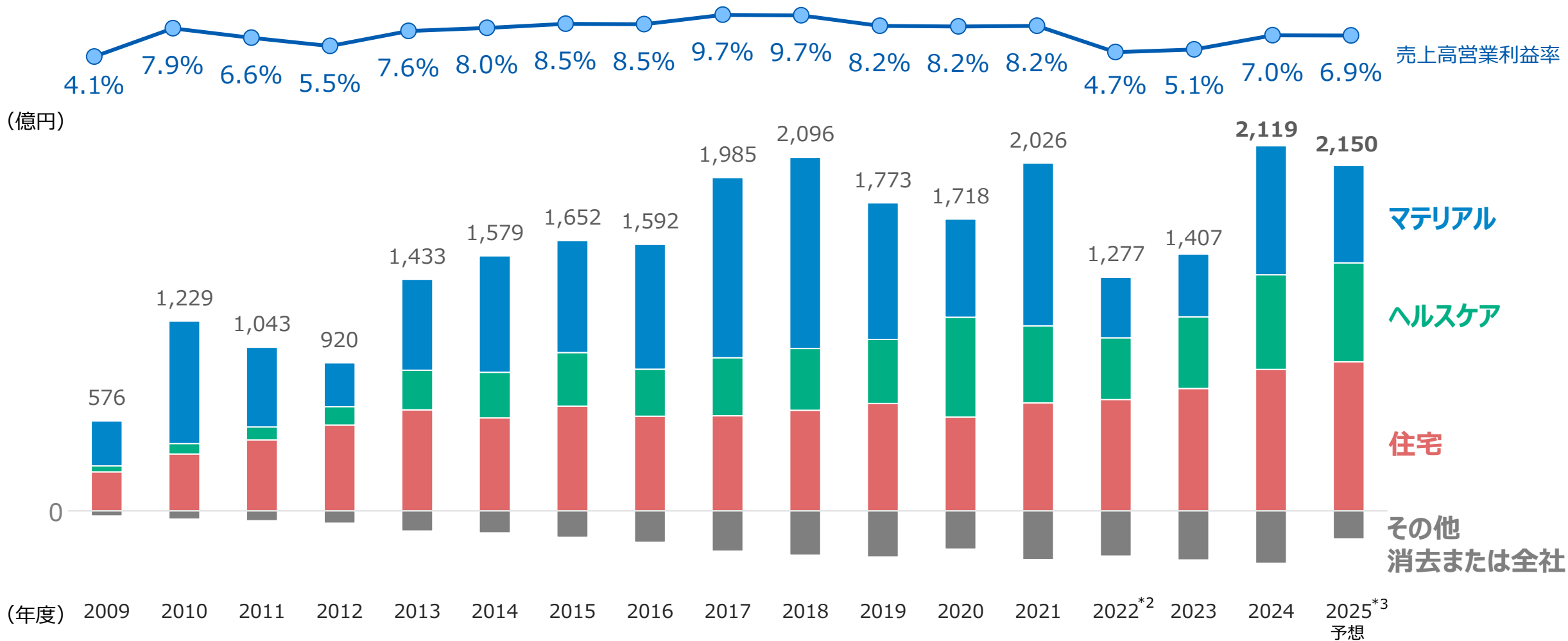
*1 2022年10月31日付で買収を完了した米国Focus社の取得原価の配分が2023年度第1四半期に完了したことに伴い、2022年度の業績を遡って修正している

*2 2024年度より、従来「モビリティ&インダストリアル事業」に含めていた一部事業を、「環境ソリューション事業」へ移管している。それに伴い、2023年度の実績について開示区分変更を反映した数値を記載している

*3 2024年度第4四半期に、2024年度第2四半期に買収を完了したCalliditas Therapeutics ABの取得原価の配分が確定した。それに伴い、2024年度第3四半期の業績について遡及処理後の金額等を記載している

営業利益の推移*1

「住宅」の安定的な利益成長や、「ヘルスケア」の利益の拡大により、利益構造はレジリエント化が進んでいる。「マテリアル」が経営環境の悪化を受けて2018年度の営業利益をピークに減少していたが、2022年度を底に改善。全社で2024年度に過去最高益を更新



*1 過年度の実績については、参考情報として現在の開示区分に簡便的に組み替えて表示している

*2 2022年10月31日付で買収を完了した米国Focus社の取得原価の配分が2023年度第1四半期に完了したことに伴い、2022年度の業績を遡って修正している

*3 2025年度より全社共通費の配賦比率を変更したことに伴い、ヘルスケアで▲10億円、住宅で▲16億円、マテリアルで▲38億円の減益要因となり、消去又は全社で+64億円の増益要因となっている。詳細は19ページ参照

- セグメント別の営業利益は各セグメント内の事業間取引の消去を含んでいるため、サブセグメント別の営業利益を単純合算した数字とは一致しない

<お知らせ>

**2025年度第1四半期決算
決算発表予定日**

2025年7月31日（木）

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。

また、実際の業績等はさまざまな要因により大きく異なる可能性があります。



AsahiKASEI

Creating for Tomorrow